京城日報
夕刊　一月四日（日）
京城府太平通一丁目　發行所　合資會社　京城日報社

元賣所　京城本町　貴生堂

休會明け議會劈頭の論戰は首相代理問題

前例を引いて政府辯明せん

憲法論では貴院が苦手

【東京電話】濱口首相の健康は漸次恢復し、元旦の紙上に現はれた寫眞の顏貌を見ても最早大した衰弱も 見ないまでになつた。さりとて一月二十日の議會再開初日に首相を出さうといふのは無理のやうである。それならば二月初めとか三月の初めとか或は議會の終り頃とかの平穩の時期に至つて首相の健康恢復次第、議會に出席を豫想し得るかといふに斯かる時期においての議會出席は却つて平坦を逐からしむる惧れがある。從つて首相が春の議會初日に出席し施政方針演説をなし得ぬ以上、先づ以てこの議會には最後まで出席せぬのではないかと見られる。茲に首相が出席せぬ事となると、茲に首相代理を以て議會に臨むことが果して立憲的政府の精神を失はざるやが問題となるべく、議會劈頭の論戰は恐らくここに焦點を置かれるものとなるであらう。かへりみれば明治二十五年十一月、第四議會に當り時の首相伊藤博文公負傷のため議會出席不能となり內相井上馨首相代理として十二月一日施政方針演説をなし、その內容中この施政方針は伊藤首相

負傷前 自らこれを起草し閣議決定したものであるとあり伊藤首相は二月七日迄缺席したのであつた。**今濱口內閣も亦此の例に從ひ違憲にあらざることを主張せんとしてゐるが果して今回の首相代理を以て貫き得るか、問題の存する所であらう。先づ第一幣原首相代理が民政黨員にあらざることが如何にするも政府に不利である。**卽ち反對黨の質問は民政黨內閣の施政方針に對する質問であるがこれが答辯に當る幣原首相代理が民政黨員にあらずとせば果して質問者は滿足するやは疑問である、さてこれ等の問題を提げ政府に肉薄する政友會の闘士には前田米藏、森恪、鳩山一郎氏等あり政府にも松田拓相ありて太刀打にてはひけはとらぬが、御大將幣原首相代理の鏃は果して磨ぎすまされてゐるであらうか。彼は外交にかけてはお手のものであり常識豐した新思想家であり、めつたに寄せ手の大勢におくれはとらぬが、唯憲法論は彼の不得手でここに弱みがある、更に

貴族院 を見るにここには憲法を論じては政府の最も苦手の花井博士あり、濱口內閣は前議會にても統帥權問題、宇垣陸相缺席問題で思はぬ所を衝かれたものであるが今度はどうか、花井博士は歷代內閣の鬼門である。首相代理問題に次ぐ議論の中心はロンドン條約である。野黨では內田信也氏が專門的に研究してをり、貴族院では井上清純男等が眞赤になつてゐるから大いに火花を散らすであらう。併し幣原男はこの問題では打つてつけの立派な首相代理である。殊に海相には親しく會議に列した安保海相あり、政府の陣營は堂々たるものがある。又朝鮮問題も政府には小面倒な問題である。これについて有賀總督の進退が論ぜられてゐるが、若し總督をやめさせれば好んで問題を大きくする嫌があり、政府にとつては痛しかゆしの問題であらう

皇太后陛下

五日宮城に行啓

【東京電話】皇太后陛下には五日午後一時三十分大宮御所御出門宮城に行啓、新年の御挨拶を御交はし遊ばされる

天皇陛下

六日大宮御所に行幸

【東京電話】天皇陛下には六日午後一時二十分大宮御所に行幸遊ばされ同四時御還幸の御豫定である

◇……朝鮮神宮における元始祭（三日）

高松宮兩殿下

ベルグラード御到着

【ベルグラード三日發電】高松宮同妃兩殿下には本日當地に御到着遊ばされたが、當地では官邊の御歡迎宴が種々豫定されてゐる。尚兩殿下御一行は五日アテナに赴かるる御豫定である

徳川議長歡迎を名に政府の貴院懷柔策

◇……議會再開期の切迫と共に諒解運動其度を加へん

【東京電話】休會明けの貴族院は勞組問題を眼前の中心題目として財界問題、豫算案問題等により研究會を初め頗る險惡なる機運に激に遡るものと豫想され、政府も對貴族院策には相當の苦心を拂つてゐたが、議改ると共に政府はいよく貴族院各派に對し諒解運動に着手し、先づその手初めとして徳川議長の歸朝歡迎を名として七日午後六時から首相官邸に貴族院各派交渉委員を招待し、幣原首相代理を初め各閣僚、政務官總出を以て極力諒解を求むることとなつた しかしてこれを皮切りとして議會再開期の切迫と共に、研究會その他に對し公式非公式の諒解運動はますく其の度を加ふべく、貴族院各派ではその奏効如何に注目してゐる

朝鮮軍司令官事務引繼ぎ

三日夜下關ホテルで林中將京城に向ふ

【下關電報】赴任の途に在る新任朝鮮軍司令官林銑十郎中將は三日午後九時四十五分着列車で下關着ホテルに一泊の上前任軍司令官、軍事參議官南大將とホテルにおいて事務引繼を受け四日後發で京城に向ふ、中將は語る

明治四十三年福岡から朝鮮軍司令部附として京城に四年過ごしたことがあるので、朝鮮の事情を大體知つてゐるが相當變化してゐることであらう、赴任した上で萬事研究したらと思ふ。間島方面の匪賊、馬賊の蜂起に就ては國境方面に一個師團を駐屯するか、又は增兵して之れが豫防策を講じたらといふ議論もあるが、經費その他の關係で實現は容易でない。警察官を多くしてこれが對應策を講じたらといふ方針も考へて居るが、よその國でどうすることも出來ない。支那の官憲に任す外はあるまい實情を調査した上で善處しようと考へて居る

京取總會の對策協議

四團體聯合で

【仁川電話】來る十一日京城公會堂で開かれる仁取合倂總會の對策協議のため府勢振興會、反對株主同盟團、聯合靑年團、町里總代會の四團體では反對の香もさめやらぬ三日午後三時から公會堂に聯合委員會を開催した、河野同盟會長結城聯合靑年團長はじめ廿八名出席、協議の結果

一、五日午後七時から公會堂に府民大會を開き去る廿九日の仁取總會の顚末報告並に合倂反對意見發表

二、總會顚末報告書を作成し當局並に關係者に提出すること

に決定し報告書起草委員に杉野、增井（榮）伴、深見、員島組の五氏を選定したる後去る廿九日の仁取總會に對する意見を交換したが何れも

一、總會當日取締役官たる小松本町署長の執りたる態度は重役の擁護にのみ努め甚だしく不公平なりしこと

一、商事會社の株主總會の會場には株主の外官憲、新聞記者以外の者は入場せしむべからざるに仁取重役が株主以外の者をも入場せしめたるは不都合甚だしきものであるから重役に對して責任を糾彈すること

に意見一致しそれより合倂反對氣勢を高調して午後六時半散會した

歐洲を通じて英雄崇拜熱勃興

日本救世軍の新使命は癩患者の收容と慰安

【本年最初の二歸朝者談】

【橫濱電報】本年最初の歸朝船淺間丸は三日午後一時船客六百八名をのせ橫濱に入港したが乘客中には萬國議員商事會議に列席した民政黨代議士山道襄一氏や救世軍山室軍平氏等があつた

山道襄一氏 歐洲を通じて英雄崇拜の氣分が擡頭しつゝあり、伊太利のムッソリーニや獨逸のヒットラー等は非常に崇拜されてゐる。又各國とも政情が不安定で地方軍事思想普及軍備充實を考慮してゐることは意外の感があつた。これを思ふと國際會議における平和的決議の如き少しの權威も効力もない樣に思つた。不景氣と失業の風は世界的に吹捲くつてゐる。各國經濟狀態不安の爲アメリカ資本家は鎖國主義をとつて海外投資を差控へてゐる。それで亞米利加の金が世界にばらまかれる時が來なければ景氣の恢復は難しい。又ロシアのダンピングも一の脅威となつてゐる。ロシアは今度は財政的に世界をソヴエート化せんとしてダンピングに依り國產品を用ひ出したのである。卽ちロシアは五ケ年計畫に依り國產品を各國に出し、ダンピングにより各國を經濟的に社會組織の變更をなさせようとしてゐる

山室軍平氏 ロンドンに開かれた將官會議に列したが會議では救世軍憲法の改正が行はれた。日本救世軍本年の新事業は癩病患者の收容と慰安にあり、このため亞米利加で二十萬圓の金を貰つて來た。ロンドン滯在中不景氣と失業問題に出會したが、流石は英國で少しも狼狽せず要するに失業保險法と宗教的訓練の結果だと思つた

新年御恒例の政始の御儀

天皇陛下御親臨嚴かに行はせらる

新年御恒例の政始の御儀は、皇室儀制令の定むる所により四日午前十時から宮中東二の間に於て 天皇陛下親臨の下に嚴かに行はせられた

新春第四日のこの日、幣原首相臨時代理以下各國務大臣、一木宮相、倉富樞密院議長は通常禮裝にて參內、九時四十分御儀の間に參集すれば、天皇陛下には陸軍正裝御通常禮裝に大勳位副章御佩用、林式部長官の御前行にて牧野內府、鈴木侍從長、奈良武官長以下を從へさせられて出御、諸員最敬禮中に御座に着かせ給ひ牧野內府、鈴木侍從長、奈良武官長、鈴木內閣書記官長、關屋宮內次官、宮內書記官等廊內に候し侍從、侍從武官等は扉外に退下し、かくて幣原首相臨時代理は恭々しく陛下の御前に參進、昭和五年中の伊勢神宮その他神宮の御神宮祭典が滯りなく遂行せられたる旨、並に各官廳の事を奏上して退下、引續き一木宮相は皇室の御事を奏上、陛下には一々御聽取遊ばされ、茲に昭和六年政始の御儀を滯りなく終へ、陛下には諸員最敬禮中に入御あらせられた

總督府御用始式

朝鮮總督府を初め各官立公署等の御用始は四日午前十時から何れも擧行された。總督府では午前十一時第一會議室に齋藤總督、兒玉總監を初め勅任、奏任、高等官、判任官、同待遇職員に嘱託の本府各局課長參列まづ總督の告辭あり、これに對して總監答辭を述べ散會した

京城府廳 京城府廳に於ては一月四日午前十時半より恒例により同廳會議室に前田內務課長以下一同參集し、安藤府尹不在に就き前田內務課長の挨拶あり、これに對し職員上席者城土木課長代表して答辭を述べ一同直ちに退散した

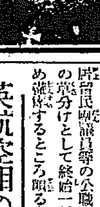
鐵道局 鐵道局においては四日午前十時より同局會議室に大村局長以下一同參集し、大村局長の訓辭あり、これに對し局員上席大澤副長答辭を述べて退散

專賣局 專賣局においては四日午前十時二十分より同局會議室に松本局長以下一同參集し、松本局長の訓辭あり之に對し局員上席者山澤製造課長代表して答辭を述べ一同退散

遞信局 遞信局においては四日午前十時二十分より同局會議室に高等官及各課分課主任參集し山本局長の訓辭あり、これに對し局員上席庶務課長代表して答辭を述べ、一同退散した

元始祭の御儀

年の始めの重き御祭典なる元始祭は、三日午前十時より宮中賢所皇靈殿、神殿において 天皇陛下御直拜の下に嚴かに行はせられた この日三殿は早朝より鋪設され、御召をゆるされた幣原首相臨時代理以下各國務大臣、宮內官、元帥、陸海軍大將、各前官禮遇、親任官、德川、近衞兩院議長以下勅任待遇以上約二百名參列、一同は九時四十分着床し、奏樂中に祝詞を奏すれば、天皇陛下には黃櫨染御袍の御服を召され、秩父宮殿下はじめ各皇族方を隨へさせられ出御、親しく三殿を御拜遊ばされ、ついで皇后陛下の御代拜、各皇族方の御拜があつて陛下には入御、引續いて參列諸員拜禮、同十時五十分滯りなく御儀を終へさせられた



死は萬人の敗北の戰鬪

ジョ元帥の辭世

【パリ三日發電】ジョッフル元帥はまさに逝去せんとするに際し「余は正に逝かんとする、之は凡ての人が敗北し來つた戰鬪である」と語つた。元帥逝去の報に接するやヅーメルグ大統領以下知名の士多數病院に馳せつけ哀悼の意を表した。なほ元帥の遺骸はフランス廢兵院墓地に埋葬されることに決定したがこれが葬儀の準備の整ふまで元帥の遺骸は一先づその故鄕たるパリの近郊たるルーヴエシーヌの墓地に葬ることとなつた。元帥の遺骸はカーキー色の元帥服に纏はれなかんづく脚部はフランス國旗で包まれその傍に指揮刀を置いてある

ジョッフル元帥逝く

【パリ三日發電】ジョッフル元帥は三日午前八時二十三分遂に逝去した

佛銀行の公定割引步合引下

【パリ二日發電】フランス銀行は本日公定割引步合を五厘引下げ二步と改訂した

御弔電御發送

【東京電話】畏き邊りでは佛國ジョッフル元帥逝去につき四日大統領ヅーメルグ氏に對し御弔電を御發送あらせられた

朝鮮の開發者ボ氏逝く

【サラトガ一日發電】探鑛並に鐵道建設者として廣く東洋方面にその名を知られてゐるハリー・ライス・ボウステック氏は、長らく病臥中だつたが遂に本日死去、享年六十歲、氏は朝鮮にて京城仁川間に最初の鐵道を建設した外最初の電氣軌道も作り、更に發電所、電話、水道敷設等を創始して朝鮮の開發に貢獻しまた京城最初の米國銀行を設置した人で氏はその功勞に依り前韓國皇帝並に日本より表彰された

古城梅溪氏逝く

實業家古城梅溪氏はかねて病氣のところ四日午前三時死去、六日午後四時途中行列を廢止、本町三丁目開教院で告別式を執行、古城梅溪氏は大分縣の人、齊藤、龜之助兩氏の兄弟で明治十九年京城公使館附醫員として渡鮮し同二十四年辭して私立贊化病院を設立、廿六年に直轄醫院に轉ぜられ六年間支那に在つた外は殆んど京城止り初めて種痘所を發展し、官立醫學校の總教習に傭聘せられる等朝鮮居留民團議員等の公職を務め京城の草分けとして終始一貫京城のために盡瘁するところ頗る大であつた

英航空相の後任決定

シ氏任命さる

【ロンドン二日發電】昨年十月R一〇一號慘事の犧牲となつた英國航空相、民間飛行局長セフトン・ブランカー少將の後任に就ては種々詮衡中であつたが本日フランシエル・マーチン中佐が任命せられた旨公表せられた

ビルマに叛亂起る

【ラングーン二日發電】英領ビルマに叛亂勃發し、一日ザールワツデイ平原で政府軍は叛軍と戰ひ、叛軍側は百九十名の負傷者を出した。政府軍の損害は極めて輕微で

叛軍の本據を燒拂ひ將校十六名を射殺した、その中にはアーモレツヅリン將軍もふくまれてゐる

英炭坑罷業

ルール地方罷業

サウス・ウエルスも同樣

【エッセン二日發電】ルール炭田地方二十の炭坑に働く炭坑夫は炭坑主側の賃銀値下げに抗議し、本日いよく一齊に罷業を決行した因みに炭坑主側では最近英國炭の廉價に對抗するには賃金八分の値下げ避け難き旨言明し、これに對し坑夫側は二週間の猶豫を與へて罷業の通告をなしたのであるが遂に本日休坑した

【ロンドン二日發電】延時間制に關し炭坑主側との協定不成立に終り、サウス・ウエルス十六萬の炭坑夫は一昨一日からいよく一齊に罷業についたが、坑夫側は三日開かれる調停委員會で坑主側との間に妥協成立を報じ、五日からは復業し得るものと確信してゐる

新時代美人法

美顏法、美髮法、姿形、眼、口、齒、爪その他美容法萬端に就て一流の大家がその秘訣を『婦人俱樂部』新年號で發表大評判！

……會……

愛國婦人會新年會　愛國婦人會赤十字篤志看護婦人會朝鮮本部では恒例に依り來る七日午後二時京城ホテルに於て新年互禮會を催すが、會員有志中出席希望の方は至急申込まれたしと

……人……

航空往來（三日出發）▲北村清七郎氏（大連へ）▲金榊光氏（平壤へ）▲朴貞淑氏（同上）▲山田賀氏（福岡へ）▲瀨尾清次氏（同上）瀨尾トク子（同上）（三日到着）▲別府測氏（大連より）▲矢部茂氏（同上）牟田稷氏（同上）▲金東朱氏（同上）

あすの天氣（5）

低氣壓は黃海西部にあつて、北東に進みつゝある、高氣壓は本邦中部、滿洲北部にあるが、半島附近の氣壓は不安定である。西岸は雨又雪その他は曇つて、氣溫は昨朝より五度內外高い、明日は天氣が回復する

豫報　曇一時晴

四日　最高　正午零下　四・七（攝）
三日　最低　零下　四・二（攝）

明日は新年宴會にて休刊

六日より復舊

刺青傀儡話

潮山長三作
挿畫　河原塚龜太郎
【172】

藍上り圖面（一）

新七が妹を待ち焦がれて、いらしてゐるところへ、この家の主の一行がどやくと歸つて來た

『や、待たせたな』

と新七の側へ葛籠を据ゑた。

『おゝ、うちの葛籠だ』

新七の目が思はず輝いた。家出してすでに幾月になることか。突然として今、質家長州屋の印の入つた葛籠が、目に染み入る程懷しい物に思はれる樣子だ。

しかし、そこにずらりと居並んだ人の中には約束の妹の姿がとんと見えない。失望的な溜息をして

『で、妹はどうなりました』

日本左衞門はにつこりして、

『妹か、待ち兼ね山の時鳥だろ。三太、谷の戶を明けて、初音を聞かせてやつてくれ』

言下に三太が葛籠の蓋を、すりッと拂ふと、今まで身を屈してゐたお香背が、延々と上半身を起した。葛籠の闇に馴れたのが、今、目の前の行燈の灯に急にまぶしく目を射られて顏を背向けたが、この殺風景な男ぐらしの只中へ、にはかに花が咲いたやうで何ともかんとも、光り輝くばかりに見えた。

『あッ、妹だ。妹だ――！』

と新七は卒倒せんばかりにびつくりし、そちらへ膝でゐざつて行つて、葛籠の緣を碎ける程摑みしめた。

燒けつくやうに見交した四ッの目だ。

『おお、兄さん、逢ひたかつた。逢ひたかつた』

『おお、尤もだ。よく無事でゐてくれた』

双方抱きついてしまつたが、新七は立つて妹の體を橫抱きに抱き上げ、まるで子供をあやすやうな恰好。兩身の純眞な感激が、却つて人々をほろりとさせた。

一同は次ぎの間へ引下つて、感激の酒盛をはじめたあんばい。

日本左衞門は大急ぎでお屋敷へ出かけた。

泣くだけ泣いた兄妹、膝をくつつけんばかりに坐つて

『親や妹にたいへん心配を掛けて濟まないと思つてゐる。自分の不孝がこの頃になつてはつきりと判つてきた』

『そら、御覽なさい。それぢやなぜ早く家へ歸つてゐらつしやらないのです』

『歸らうにも何にも、この頃ぢやお慈悲の牢屋へ入つてゐるやうで自分ながら、不思議になりやしない』

『だつてこゝのお屋敷はあのお情深いお武家樣のおすまひでせう』

『あゝ、實は私、道で氣絕してゐるところを、あの方に助けられて、それから、十分療治もしていたゞいたのだが』

『あら、ま、そんな事があつて』

『いや、それは追つて話す――お父さんは伊吹山へ藥探りに行つて丁度今は御留守だろ』

『いゝ――』

とお香背は胸にきくり首を垂れる。

『ほう、さうか。それではお母樣は？』

『お母樣は死ぬ程心配してゐますよ。兄さんのありかがとんと判らないから』

聞けば聞くほど身にしみる新七である。

そこへ日本左衞門が歸つて意外な報告を齎せた。

『新七、もう我を折つて父の處罪にわびる氣になつたらどうだ。親子の情は格別だ。時親はお前に逢ふためにこのお屋敷で、さつきまで待つてゐたのだ』

『えッ』

『仔細あつて一寸他出したが、今に再びやつて來る。親子離れは見苦しいとあつて、このお屋敷のお殿樣が、わざく仲裁にお這入りになるのだ。お殿樣とは――今云ふが始めて、それは尾張侯宗春樣だ。有難く思ふがいゝ』

『あッ』

『あらッ』

意外とも何とも、兄妹一時に骨まで凍る思ひがした。

謹賀新年
鐘城　毛利北吉

春川邑　江原道種苗場　職員一同

通關運送業　木浦光州間定期貨物自動車部　吉田組　木浦榮町

春川邑　江原トラック運輸部

木浦驛前旅館　宮崎速雄

春川邑　各學校長懇談會

木浦無盡株式會社

春川邑　春川金融組合

木浦府廳　職員一同

木浦米油組合

木浦　棉花部　米穀部　內谷商店

木浦無線電信局　秋山忠次

木浦運送組合

木浦公立普通學校　職員一同

木浦榮町　運送部　回漕部　長門組

朝鮮棉花株式會社

木浦榮町　材木　肥料商　石炭　守田千助商店

木浦驛前　朝鮮運送株式會社　木浦出張所　都築唯一

木浦　綿絲布反物類雜貨商　樋口由太郎商店

木浦驛前　㊂吳服店

木浦驛前旅館　虎屋旅館　三吉野旅館　柴田旅館

木浦　和洋酒類商　岡村又次郎商店

朝鮮汽船株式會社　木浦支店

木浦榮町　タワダ自轉車店　電話一二六番

木浦商工會議所　職員一同

木浦　穀物移出商組合（イロハ順）　木浦穀物市場
井上留吉　太田孫三郎　直場健三　內谷萬平　高津福太郎　遠藤役次　木下千重治　森田泰吉　森酒井

木浦榮町　貿易商　松前義三商店

鮮航同盟會　木浦支部

東洋拓殖株式會社木浦支店
朝鮮實業株式會社木浦支店
朝鮮興業株式會社木浦管理所
鎌田產業株式會社木浦支店
福田農事株式會社
國武農場
木浦殖產株式會社
德田洋行木浦支店

各大臣の年頭の辭

財界立直しの完成 合理化達成の年

大藏大臣 井上準之助

昭和の第六年を迎ふるに當つて一言所感を述べることは私の欣幸とする所である。

昭和五年は世界の經濟界に大いなる變動のあつた年であるが、日本の經濟界に取つては誠に容易ならざる年であつた。何時までも永續すると稱せられて居た米國經濟界の繁榮も一昨年七八月頃より段々下り坂となり、十月には遂に

『米國の』證券界において價格の大暴落が起り、その後一年間は世界何れの國も深刻な不景氣に苦しんだのである。わが日本は世界各國に比べて經濟界の整理が遲れて居り、漸く昨年一月十一日に至つて金解禁を決行し得た程であつて恰も財界立直しの進行中世界不景氣の影響を受けたのであるから、その苦痛も一層甚だしかつたのである。昨年四五月頃には國際的に重要なる商品の價格は暴落し、世界的に人心は不安となり、我國にも海外から種々の惡材料が頻々と傳はつて來て財界を脅かしたのである。加ふるに九月頃にはロンドン海軍條約批准の問題に絡み一時政局は不安となりこれが爲に財界は益々危惧の念におそはれたのである。然るに十月頃からは幸にして海外の經濟の狀況もや〻落つき我國政局の不安も一掃されたうへにこれまで各方面において講ぜられた諸般の對策の效果も

『漸次に』現はれて來て我が經濟界もや〻落ついて來たのである。又一時金融難をうたはれた事業もその解決が着いて、年末の金融界も平穩裡に越年するを得たとは眞に幸である。昨年の外國貿易の狀況は輸出入共に金額においては著しく減少したのであるが、數量を見ればその減少の度は左のみ大でないから日本の經濟の整理が進み、各方面における産業の改善も出來、物價低落に適應して生産費も低下し、採算の基礎が立つに至れば貿易は盛に發展し得ると考へられる。又輸入超過額も一昨年に比して大差なく世界不況に當れる金解禁の第一年として相當の成績であつたと考へる。然らば今後日本は如何なる方向に進むべきであるか。本年は財界の立直しを完成すべき最も大切なる年である。最近經濟界は急激に變化したのであるからこれに適應して政府は行政および税制の根本的整理を行ふ決心である。政府はこれまで不景氣に伴ふ歳入の減少に對して行政の經濟化を計り歳出を節減して收支の均衡を保たせたのであるが、急激に國費が減少したのに對應させ更に進んで行政の刷新を計る爲には行政財政の根本的

『整理を』行はねばならぬ。又經濟の變化に應じて税制を整理し負擔を一層公平ならしめる必要があるから、今後税制について十分の調査を行ふ考へである。地方民間においては既に諸策の如く不景氣に對應して十分に事業の整理を行ひ今日已に收益の基礎が立つたものもある。然しながら今後大いに內部の整理を行ひ、また事業の統制を計つて其基礎を鞏固にする必要のあるものもある。これ等のものについては更に一層努力をして産業の合理化を完成せねばならぬ。獨り經濟界のことに限らず一般國民の生活についても新しい工夫を廻らして、その合理化を計り國民全體が快よい生活の出來るやうにすることがすべての者の務めであると考へる。

吉例消防出初式

けふ、城東訓練院原頭で

吉例の消防出初式は四日午前九時から城東訓練院原頭で行はれた。定刻開始を合圖するりやうりやうたるラツパが吹かれるや大藥消防組長の指揮により京城消防、京龍義勇消防組、纛島、永登浦各消防組等隊伍堂々、分列行進し馬上豊かに點閲する警察部長以下關係官の前を進み、續いて十數臺の自動車ポンプも行進し、次いでこの日の呼び物である梯子乘りに觀衆の眼を輝かし出初の水を高く立てられた柱の間に設けられた玉に向つて一齊に放水し虹の色さすが如き落ち吹く水に玉のはじかれる有樣は出初式ならでは見られぬ壯烈な光景を呈した。續いて警察部長の訓示、表彰式、記念撮影あつて十時半盛會裡に解散した

寫眞說明 訓練院原頭にて上は出初の水、下は梯子乘

われらの東郷さんへ 可憐な小學生の年賀狀

その純情さに涙を流して感謝

【東京電報】東郷元帥は本年八十五才の新春を迎へてたゞ元氣旺盛で全國民の信望を一身に集めてゐるが、麴町區上六番町三六番地の元帥邸では元日午前八時ごろから元帥の高壽を祝ふ年賀客が押寄せ安保海相、岡田前海相、谷口軍令部長、小林次官、加藤練習艦隊司令長官、山梨、百武兩大將をはじめ地元の市青年團員等が五百名近くに達した。老元帥は元日は午前七時起床九時四十分參內を濟ませてから全國から集まつて來る年賀狀を一枚一枚目を通して讀まれ、元帥の德を慕つて未知の人から來る年賀狀は昨年より千余枚に達する有樣であるが、それらの中には可憐な小學生から來るものが多い、これら小學生からの年賀狀には元帥の健康を祝ふ純情が現はれてをり、元帥もこれら小學生の手紙には何時もその純情に涙を流して感謝してゐる

全國高等學校氷上競技大會

城大豫科 決勝戰出場 ホツケー戰に

【盛岡電報】帝大氷上競技聯盟主催文部省後援第一回全國高等學校氷上競技選手權大會は二日午後盛岡市外高松池リンクに舉行された參加校は二高、松本高校、北大豫科、城大豫科、旅大豫科、學習院の六校、午後一時半入場式を舉行し引續きフイギユア・スケーテイングより開始、午後二時よりは左の如く氷上ホツケー豫選を行ひ松本高校および城大豫科は勝ち殘つて三日決勝戰に出ることゝなつた

松本高校二―〇二高
城大豫科一―〇北大豫科

フイギユア 成績發表 一等は德川君

【盛岡電報】二日行はれた全國高等學校氷上競技大會のフイギユアスケーチングの成績は三日午前九時半左の如く發表したが、個人競技は學習院德川君一等となり、對校競技は得點數を總合した結果北大豫科が優勝校と決定した、たゞ各選手各種目別の得點は聯盟の規約に從ひ發表せず、順位點のみを發表した

個人競技 一、德川家秀（學習院順位點三點）二、大內敬次（旅順工大豫科六點）三、高野隆（二高九點）四、中島國雄（北大豫科一三點）五、眞井福次郎（北大豫科一四點）六、五十嵐久成（北大豫科一六點）

優勝校 北大豫科

なほ三日は午前中結氷薄きため午後より競技を舉行のはずである

第二日は延期

【盛岡電報】リンクの結氷惡しく午後に延期された全國高校氷上大會第二日は午後もなほ結氷惡しく三日は遂に競技中止四、五兩日行ふこととなつた

大統領の秘書 映畫會社へ

【ワシントン二日發電】フーヴァー大統領の秘書ジョージエイカーソン氏は本日辭職しパラマウント映畫撮影會社の重役會に入つた氏のパ社重役としての年俸は三萬ドルである

本社來靑閣の冬期體育講習 三日より來る七日まで開催せられ非常な盛況を極めた

徵兵適齡者 御注意數々

その身體檢查日割 五月一日以降に

徵兵適齡者へ御注意――本年徵兵適齡（明治四十三年十二月二日生より同四十四年十二月一日生）となつた內地人男子はその戶主から本年一月中に各自本籍地の市區町村長宛に徵兵適齡屆を提出せねばならぬ。本年適齡の者その他徵兵檢查を受けることを要する者は願ひにより朝鮮內で徵兵身體檢查を受けることが出來る。その願書は二月末日までに到着するよう咸南、咸北、江原各道および支那間島在住の者は羅南第十九師團長宛に、その他の朝鮮在住者は龍山第二十師團長宛に提出すればよい。願書の樣式その他の詳細は各府郡廳その他の要所に公示されてゐるが、たゞ不明の點があれば最寄りの警察署又は師團司令部に照會すればわかる。たゞ身體檢查の日割豫定は左の通りである

▲羅南、步兵七十六聯隊五月一日
▲會寧、同七十五聯隊同十九日
▲咸興、同七十四聯隊同廿二廿三兩日
▲元山、商工會議所同廿九日
▲大田、步兵八十聯隊第三大隊自五月一日至同四日
▲釜山、公會堂自同七日至同十日
▲大邱、步兵八十聯隊同十四十五兩日
▲平壤、同七十七聯隊自同十八日至同廿日
▲龍山、同七十八聯隊自同廿四日至同三十日

一千頭の鯨群 銚子濱に押寄す

幸先よしと喜ぶ町民

【銚子電報】元日早々銚子の濱は一千頭近いごんどう鯨の大群に見舞はれ幸先よしと大喜びである、元旦の初陽ほのぼのと洋上にのぼる午前五時頃千頭近い鯨の大群が轟く鹿島灘洋上に盛んに潮を吹いてゐるので漁夫連は大喜びで、それとばかりに出動準備を整へ時を移さず發動船二十數隻が出動し四時間に亘る壯烈なる捕鯨が展開されたが、その價格ざつと見積つて三萬圓、この思ひもかけぬ大金がころげ込んで銚子、波崎兩町は昭和六年幸先よしと有頂天になつてゐる、これがため銚子川口は寄來る鯨で埋まり、鯨の流す血潮に染まり初陽をうけて海水は眞赤な色に輝いた、銚子附近の海岸はこの鯨見物のため時ならぬ混雜を呈し景氣のよい大鑑の聲もいと朗らかである

龍井の火事 放火說濃厚

【間島發】龍井村七日午後八時十分頃龍井村下市場魚商金夏濟方裏手臺所より出火、附近一帶が家屋のみだつた關係上折柄の風にあふられ一時燒かれたが同所は附近にかつて二回も放火されたこともあり、同夜鎭火後又も同所附近に放火あつた關係上前回の分も恐らくは放火であらうとの取沙汰で年の瀬をひかへて人心の不安を增してゐる

元旦早々 レゾール自殺

【新義州發】去る三十一日夜新義州中江旅館に投宿した原籍北海道札幌當時大連市白銀町三五伊藤一夫（二〇）は同夜レゾールをのみ自殺をはかり苦悶中を女中に發見され直に道立病院に送り手當を施したがその甲斐なく元日午前二時頃遂に死亡した、原因も判からず大鐘、住所とも照會したが身よりのものもなく止むなく府廳に引取り假埋葬に附した

正月酒に泥醉して喧嘩

足はらひにかけられ翌日死亡す

【平壤特電】平安南道江西郡水山面雙松里金宗道（三五）は一日年始廻禮に出て同日午後二時頃水山面駐在所附近路上で泥醉同席者と喧嘩をなし同席者二名が宗道を自宅に歸らせんと連れ出したが途中で宗道は同行の二名に暴行しこれを聞いて駐在所首席部長が驅けつけたところ宗道は同部長に暴行し、同部長は柔道の足はらひにかけてこれを防ぎ別れたが宗道は二日午後四時死亡した、原因取調べのため道警察部より安在警部、平壤地方法院、鎭南浦支廳より廣川檢事が出張を協へて急行した

高田のスキー大會

參加者百八十七名

【高田電報】高田スキー聯盟主催第一回スキー大會は三日午前九時より高田市郊外の金谷山スキー場において開催のはずであつたが、同スキー場は雪少なく滿足でないため急にスキー場を南葉山に變更して舉行、申込者は關西を主として、遠隔地の者も多く、全員百八十七名の大多數の參加を見、大會としては豫想以上の成功だと喜んでゐる

貞洞の火事

三日午前七時二十六分頃府內貞洞一七五番地井久年方發火、同家一棟一戶を全燒同七時四十六分頃鎭火、原因はストーブの火の不始末、損害は二千七百圓

自動車が峠より顚覆

二名死傷

【平壤特電】二日午後一時頃平安南道順川新倉自動車會社自動車を同會社運轉手が助手および乘客一名を乘せて順川より而山へ向ふ途中順川郡慈山面昌興里の峠より下る際故障を起こして顚覆、乘客順川郡新倉面新倉里李桂興（四〇）は卽死助手朴曾國（二二）は重傷を負つた

遊覽飛行は一時中止す

花見頃に舉行

日本航空輸送會社においては航空思想普及の爲京城上空遊覽飛行を來る一月十八日（第三日曜日）より二月末まで京城の上空を飛翔し府民の利用に努むる筈であつたが、種々の事情により一時中止し花見頃の三月末まで延期する由である

婚禮一切の相談

結婚の急所、見合成功法、夫婦の合性、身許調查法、正しい性知識等々親も娘も心得置くべき重要問題、「婦人俱樂部」新年號で大評判

ルーブル相場の嫌疑者釋放

【敦賀電報】敦賀連絡船天草丸は二日午後敦賀に入港したが、同船で昨夏ルーブル相場嫌疑で拘留處分を受けた西商市德川寅一、新潟縣中頸城郡板倉村島田德次外三名は和議無罪の判決を受け釋放されて歸朝した

各地の雪

【東京電報】東北地方は一日夕刻より雪六、七寸積る、明治神宮は繪の如き雪、『社殿の雪』を出現した

▲長野 一日夕より積雪赤倉は四尺五寸に及ぶ、スキー客殺到し大混雜
▲盛岡 全國氷上競技大會午前九時入場式舉行の豫定であつたが昨日來の降雪を排除するため午後一時に延期す、引續き競走開始（二日發）
▲仙臺 一日夜より猛烈なる降雪除雪車出動準備す
▲前橋 雪積ること七寸、奧上州一帶のスキー地は何れも二尺以上珍らしい大雪である
▲宇都宮 二日朝猛雪五寸五分內外、かゝる積雪を見るは珍しい

JODK

一月五日（月曜日）

午後零時三〇分 氣象概況、各地天氣實況
同零時四〇分 浪花節 河內山と直侍 徐珊瑚珠
同一時三〇分 歌詞一、眠曲二、竹枝詞三、詩調 金寄山
同二時〇分 ニュース
同六時〇分 童話（東京） 久留島武彥
同六時三〇分 連續口演 春香傳（四） 名唱 金昌龍 韓成俊
同七時〇分 ニュース プログラム放送 洋樂の夕（東京）
同七時二五分 獨唱 ソプラノ 田中富子 ピアノ伴奏 榊原直
同八時〇分 ピアノ獨奏 マキシム・シャピロ
同八時二〇分 獨唱 ソプラノ 武岡鶴代 ピアノ伴奏 榊原直
同九時〇分 管絃樂とヴアイオリン獨奏 日本放送交響樂團
同九時三〇分 ヴアイオリン獨奏 ニコライシフエルブラツト 指揮 ロベルトポーラツク 氣象概況 時報

一月六日（火曜日）

午前一〇時三〇分 氣象概況、各地天氣實況
同一〇時四五分 料理獻立 數の子の酵味噌 日用品相場
正午 時報 ニユース
午後零時二〇分 落語 七福神 我望館 柳亭燕路
同一時〇〇分 伽倻琴竝唱 一、短歌二、沈淸歌 吳太石
同三時四五分 ニュース 官廳公示事項
同四時四〇分 ラヂオ體操 職業紹介事項 今晚のプログラム
同六時〇〇分 合唱と獨唱 ハルミコ合唱團 一、混聲イ、祈りロ、獵人の別れ二、男聲イ、かぶと虫のおやぢロ、ボルガの舟唄三、童謠イ、スケールい、忘れぬ家ハ、スエーデンの子守唄ニ、助け 四、獨唱 ロシヤ民謠 今井了介 五、混聲 流浪の民
同六時三〇分 文藝講座（A） 名作のグリムス其一 ミルトン失樂園 文學博士 齋藤勇
同七時〇〇分 ニュース 官廳公示事項 明日のプログラム
同七時二五分 講演（A） 文藝に現はれた牛 文學博士 笹川臨風
同八時〇〇分 笑ひの夕（A） 奏樂 金の鈴オーケストラ 落語 鹿火事 桂文樂 奏樂 湯屋番 柳家小さん 奏樂 金釣 桂小文治 奏樂 居酒屋 三遊亭金馬
同九時三〇分 氣象概況、各地天氣實況 時報
同九時四五分 ラヂオドラマ その後のカチユーシャ ラヂオ劇研究會 徐月影 朴齊行 朴熙秀 李雲芳 他

大正館（四日から）▲『紺代物語』十卷田中絹代主演▲『かたわ雛』十卷林長二郎主演
京龍館（六日から）▲『少年ロビンソン』クーガン主演▲『隨隙歌』原駒子主演

大評判！万人向キ娯樂雜誌 トテモ安イ・トテモ面白イ……
二月號 イヨイヨ七日全國書店ニ出マス。賣切レヌウチ早クオ求メ下サイ。
共樂 一冊僅カ貳拾錢
東京 博英社發行

債權請求申出催告ノ公告
財團法人向上會解散ニ付昭和五年十二月十日解散シタルニ付債權者ハ昭和六年三月九日マデニ其ノ債權ノ申出ヲ爲スベシ若シ右期間內ニ申出ヲ爲サザルトキハ淸算ヨリ除斥セラルベシ
右民法第七十九條第一項第二項ニ依リ公告ス
昭和五年十二月　日
京城府天然洞三十一番地 向上會解散事務所
財團法人向上會解散淸算人 小林源六 外一同

喪中欠禮 總督府 山口精

旅行中に付年始缺禮仕候 光州 金信錫

喪中に付年賀缺禮仕り候 渡部渡

父梅溪儀永々病氣ノ處療養叶ハズ本日午前三時三十分死去候ニ付生前ノ厚誼ヲ謝シ各位ニ御通知ニ代ヘ此段謹告候也
追而葬儀ハ來ル六日午後四時自宅出棺本町三丁目東本願寺別院ニ於テ執行仕候間御會葬被下度候ニ依リ供花放鳥ノ儀ハ御辭退申上候
昭和六年一月四日
嗣子 古城憲治
親族總代 吉永菅堂 有昱郎 松寺竹雄 和田一郎
友人總代 山口太兵衛 釘本藤次郎 安東貞一郎

府立 仁川病院
院長 醫學博士 岩井勝三郎
副院長 醫學士 西野入眞澄
內科 小兒科 外科 産婦人科
電話 病院 一〇二 一〇六番

ストーブの種類を不問 八方向最適品 總督府保証付 鷄林炭
電本三三〇二番 三六二二番

代表的國産優良品
クラブ堂級化粧品
クラブ堂級化粧品（クラブ化粧品堂ビル專賣品）は代表的國産優良化粧品の眞價を推奬宣傳し以て輸入防止輸出促進の目的を達成し一面聯盟組織の下に特定販賣制度に依り公正値段を以て發賣致居候

主要品種別	主要品種別
クラブ固煉白粉	クラブ美身クリーム
クラブ煉白粉	クラブつぼみ
クラブ水白粉	クラブ化粧水
クラブ粉白粉	クラブ乳液
クラブ紙白粉	クラブゼリー
クラブ白粉錠	クラブ香油
クラブタルカン	クラブ美髮用ポマード
クラブ粉齒磨	クラブブリリアンチン
クラブ水齒磨	クラブキニーネ香水
クラブ洗粉	クラブオードコロン

輸入防止輸出促進

新年所感

多事多難の昨年
財界好轉への用意を忘るな

商銀頭取　和田一郎

昭和五年の財界程多事多難であつたこと鑒しまれであらう。その間日本の經濟は眞の困難に直面して居たといふも過言ではなからう。年初には劃期的事業として金解禁が實行せられて我國の經濟は漸くその常道に復し財界の基調は初めて正常に復するを得た、然し解禁の影響は漸次具體的にしかも深刻に表はれ來つた。それに加へ世界的不況の影響を受けてここに財界は二重の打撃を受けることとなり一層不況を深刻にした。

【政局】 は安定したものの公私經濟の緊縮はいよいよ透徹して人心を萎縮させ、購買力は減退し、物價の低落は著しく生糸は未曾有の安値に陷り、米價補償法の發動を余儀なくせらるゝに至り、綿糸布その他重要商品の値下りも顯著にして米穀は內鮮共に稀有の大豐作で、比較的堅調を續けて居た米價も九月頃より激落を演じ、農村經濟の疲弊を一層深刻にした。中小商工業者また一段と困窮の度を增し各種生產工業は何れも利益率を減じ又は採算難に陷つて不振を極め、失業者は續出して重大なる社會問題と化した。これ等の事相は證券界に反映して諸株は一齊に崩落を示すに至つた。外國貿易を見るも右等の事情に加へ銀塊の暴落、印度の關稅の引上等の惡材料輻湊して十一月末日迄に內地のみにおける輸出入總額は前年に比し十二億四千萬圓、三割弱の減少を示してゐる。もとより重要商品の價格低落を織り込んでの計數なればその金額のみを以て總てを律し難きも、數量においても著しき減退を示してゐるは明かで、同年の差引入超は前年に比し相當不成績は免れ得まい。然し國際經濟の現狀と國民經濟の現狀においてはこの程度を以て寧ろ順當といふの外はなからう。朝鮮の財界が內地の大勢外に立つ能はざるは明かであるが殊にも注意すべきは產業の大宗である米の大豐作と値下りの影響であつて第二回收穫豫想は千九百二十四萬石で前年の實收に比し五百五十萬石、四割五分の增收を見込まるる狀態で、九月より米價は急落を演じ仁川期米は一時先限十二圓臺を割るの慘狀を呈し、積年の疲弊に加へ米價の慘落と合せ農家經濟の困窮甚しきものあり、豐作の凶年なる奇現象を呈するに至つた。政府においても鋭意これが對策に努められ、外米輸入の調節、農業及商業倉庫の設置、低資の取入等種々施設せられ、移出統制を計ると共に農家經濟の振興に努せらるゝところあり、米價安と對策期待の爲年末迄には出廻り甚だ少く、價格も幾分持直せるも購買力は減退する一方にして、商取引も萎縮不振を極め、輸移出入貿易も十一月末迄の合計において前年に比し一億一千九百萬圓の減少を示してをり同じく全鮮手形交換高が枚數三萬三千四百、金額三千六百餘萬圓の減少を示せるに見るも十分この間の消息を窺ふに足らう

【金融】 界方面においては先づ指を屈すべきは解禁後金の流出で、その額三億圓を超ゆこれがために通貨の收縮を來したと相當尠からざるものがあり、最近日本銀行の正貨準備高に正貨準備が何れも二億圓以上の減少を示して居るに見るも明かで、これが爲に金融の緩慢的狀勢は相當緩和せられたものゝ地方銀行は依然として資金窮迫を革め得なかつた模樣で、合併整理が地方銀行方面に多く行はれたのを見ても首肯せらるゝところである斯く通貨收縮の結果は勢ひ金利の昂騰を來すべきであるが極度の不況による資金需要減と世界的低金利の大勢はあまり金利を刺戟するに至らず、十月には郵便貯金の利下に次ぎ日銀の利下が行はれ、從つてこれ等關係預金の低下を伴ひ金利の反騰を緩和し、相當財界の安定に資するところがあつた。なほ內地では事業金融の梗塞を緩和する爲に一流銀行が融資聯盟を組織して事業の合理的金融に乘出したことは確かに時代の生んだ新現象で、一時懸念されて居た不安人氣も漸次薄らぎ年末の金融も至つて平穩に經過することを得た。以上の財界に處し政府は

【國產】 品愛用、產業合理化その他種々の對策施設を講じ財界の整理改善は相當進捗したるもの〻如く、年末におよんでは綿糸、生糸の反撥を先驅とし各種商品價格も小康を得、株價も次第に安定の歩を見せ不安人氣も薄らいで、財界は漸く前途の曙光が明かならむとする步調が表はれたかの感がある。然し之を轉機として好轉するものと見るは早計であつて、財界が好轉するにはそれに適應する事情の醞釀することを必要とする。既往の例に見るも不況底をつき、好況に轉ずる迄には相當の整理期間を存するを常とし、又整理改善は一般的不況に人心の安定した際を最も好適とする。しかして之が實行の爲にはなほ前途幾多の困難と試練を嘗めなければならぬ、今日の不況は戰時好況時代に無謀に擴張された企業の適當なる收縮整理が十分行はれなかつたに原因する所も尠からず、從來の如き無統制なる經營上の合理化を行ひ生產の原價を引下げて採算の基礎を確立することが必要で、また從來兎角閑却されてゐた資本關係の整理を計ることも併せて強調したい。固定資本や借入資本の整理調和の必要なることは採算の取れる事業が金融上において行き詰つてゐるもの多きを見ても首肯されよう。斯くて生產組織が改善せられて後更に生產と消費との均衡調節を計る方法が講ぜられなければなるまい。金融界についても金融の分野を來し信用基礎の增大を計るなどは取引合理化を計る余地があらう。一般物價について生活に最も關係深き特殊商品の小賣相場において未だ低下の必要を感ぜらるゝものも見受けられる。その他各種の事情が改善調整せられてやがて來る世界經濟の轉機に對し適應する用意を整へ、財界の根蒂を確立することが現下の採るべき施設の途であつて、その上國際貿易の伸張政策を見るに至らば財界にはじめて恢復の黎明を見得るものといふべく官民の自覺と努力により一日も早くその曙光に接せむことをこひねがふものである。

迎春の辭

伸びんが爲の緊縮
亦已むなきに出づ

京城府尹　安藤袈裟一

こゝに昭和第六年の新春を迎ふるに方り、謹みて年頭の賀詞を府民各位に陳べ得るは、不肖の最も光榮として且つ欣快に禁へない所であります

治まれる世々のためしをみやこ人ひなもろともに祝ふ春かな

げに仰げば彌高き彌遠き昭和の大御代、鳳曆を將めて嘉祥裕かに聖德普しく德化無疆の鴻澤に霑ひ海天遙く隔つる十三道の山河亦爾れやかに瑞氣祥光を添へて日に進み日に新なるの皇猷を如實するもの〻如く、四方昇平の慶運愈盛に充つるを拜す。微臣臣子の洪福何ものか之に加へむ。只々恐懼感激して夙夜淬礪以て皇謨を翼贊し奉り、洞榮壽公を憑つて一層聖運の隆昌に貢獻しなければならない所以の理を痛感する次第であります殊に況んや朝鮮統治の大業は陛下の夙に先帝の洪範に則らせ給ひ、垂撫馴化の仁政を布き給ふ所佐命の當局亦夙に宸衷を體し贊輔に努め、施政の經綸概ね良好にして着々革進の實を擧げ我が京城府政の進展も亦幸に全府民の愛府的觀念に育まれ、大京城建設の達成に寄日たる狀勢に在ることは洵に府民各位と共に御同慶に禁へない次第であります。而も此の秋に當り不肖寡聞德任に府尹に就き、聊か微力を盡し以て府政の進展に寄與し、併せてその向ふ所をいよいよ明徵して折角重責の負荷に背かざらんとを期してゐる次第でありますが、奈何せん世局現下の狀勢は乃ち帝國の國策たる財政經濟の建直しに直面し來り、極度の緊縮節約期に引き續き遭遇してゐるので、府政の立案計畫等また勢ひ消極的たらざるを免れ得ない次第であるが、しかしながら本年度豫算の計上に方つては努めてそのあんばいに深甚の考慮を拂ひ實際上支障なからんことを熟慮してゐる次第である。蓋し能ふべくんば如斯機會において出來得る限り府財政の根底を一層堅實ならしむると共に懸念し、その今日の緊縮節約をして他日伸びんが爲の彈力性を培養するとともに府民各位の精進協力を得ることが出來るならば、府政の前途必ずや順調の進展を見るべく、斯くして近く實施せられんとする制度改正の建設はその力強き步武の展開と相まつてグレート京城の建設はその完成の域に到達し得ることを信じて疑はない次第であります。時中臨和改曆の初頭、こゝに恭しく皇運の無窮と國祚の無疆を壽ぎ奉り、併せて京城四十萬府民各位の萬福を祈念して止まざる次第であります

昭和五年の回顧

徐々に財界は好轉せん

朝鮮生命社長　韓相龍

こゝに最も多事多難であつた昭和五年を送り、新春をむかへるに際し、靜かに過去一年を回顧すれば特に感を深ふせずにはをられぬ。先づ昨年初頭において多年懸案であつた金輸出禁止は、いよいよ一月十一日を以て解除せられ、我國の經濟は十有四年ぶりで、金本位制の常道に復歸することになつたので、これが爲め爲替相場は安定し、財界はこれを轉機に漸次立直るものと一般に推論したのであつた。然るにかゝる樂觀的期待を裏切る諸現象は、間もなく財界を襲ふに至つたのである。

朝鮮產業の大宗たる米は、一般物價の低落其他深刻なる環境の不良により、その價格は終始軟調を續けて來たが、數年來未曾有の豐作は殊更低落を招き、全國的豐作による增收はやがてその價格の暴落を現示するに至つたのである。米價の急落と產繭價額の崩落は農村購買力を減退せしめ、商工業界の不況は失業增加と相まつて一層深刻の度を加へたのである。從つて金融界においても資金の需要は依然不振にして、郵便貯金の利下等一般金利の引下を先驅とする合理化政策も、未だその効果の著しきを見ずして越年したのである。

要するに昨年は金解禁の初年として、不景氣の深刻なると、米の增收による價格の急落等の事情より然らば今後の財界は果して如何なる推移を辿るべきか。これは斷言するは極めて大膽といはなければならぬ、然し吾人は我が財界の好轉を期するには、第一產業合理化による生產の統制と物價の安定を計らなければならぬ。就中米價の安定は目下の急務中の急務であつて、なほ中小農商工業者に對すべき資金の大融通を望んで止まない。第二貿易の改善を計らねばならぬ、これが爲には銀價の安定といふ事が第一の條件といひたい。幸に歐米の經濟學者も近來銀價安定に大なる注意を拂ひ研究を進めてゐるといふ最近の消息は最も喜ばしい事と信ずるのである。現在受難期に直面する我財界は本年に入り急激なる好況を見ずとも徐々に好轉への曙光へと辿り往くことを期待して止まない次第である。

多事多端なる朝鮮私設鐵道

百年の大計を樹立せよ

新田留次郎

朝鮮における私設鐵道の建設、昭和四年までに起工せるものを以てほゞ一段落と爲し、更に建設を進むることは政府補助金力その最高限度を超過するおそれあるを以て、こゝに一頓挫を來たすことゝなつた。

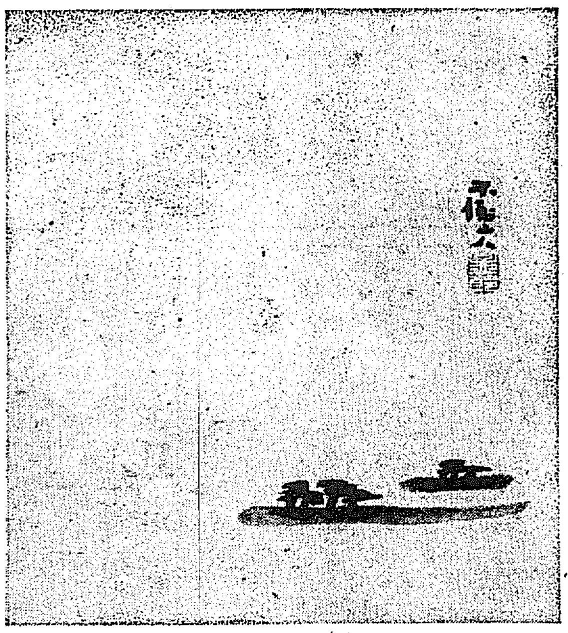
然るに昭和五年の臨時議會において補助金の限度を五十萬圓だけ增加せられたるにより右行詰り漸く打開せらるゝこととなり、五年中において金剛山鐵道の金剛口長安寺間、朝鮮鐵道の慶北線醴泉安東間および黃海線海州土城間、延長約八十哩の工事を進むることを得るに至れり。

しかして五年中に開業したる線路は延長實に約百七十哩（南朝鮮鐵道約百哩はこの稿を執筆する際には未開業なるも六年中に開業すべき線路なるを以て假にこれを加算す）を算し一般不況に進行して私設の大進展を見るの奇觀を呈したるも越えて六年に至り開業し得るものは約六十哩に過ぎず、更に七年に入りて開通すべきものは漸く十哩に過ぎずして、ここに私鐵延長の行詰りを來さんとす。依て政府において更に補助年額を增加するか、既設線を買收するか何れかその一を實行するにあらざれば將來私鐵の延長を見ると能はざる現狀に在りとす。乃ちこの局面打開の計畫を樹立するとは本年における私鐵の重要なる案件なりとなす。

私鐵の補助年限は現行補助法によれば會社設立登記の日より十五年となす。しかしてその投資の年次によりこれを區別して計算するときは大正八年乃至九年よりこれを得るといへども現在の私設線中には昭和七年以降二三年の余日を有するに過ぎず、しかも朝鮮の現勢にありては既設線にしてこゝ數年中に起業すべきものあり、これ等は獨立して相當の成績を擧げ得る見込みあるものあるなし。元來私鐵敷設後すでに十年を經てその成績は見るべきものなしとするも、その地方の開發に資する點において將た國鐵の培養線として極めて重要なる效果を擧げつゝあるものなれば國家はその成長を援助するに當りこれを徹底させざるべからず。すなはち補助年限を延長するの議は遲くも七年までにこれを具體化せしむべくその議を進むることはまた本年における私鐵の重要なる案件なり。

更に六年における私鐵の營業成績は一般財界の好轉せざる限り甚しき困難なるものあるべく否成は一層五年と大差なかるべく覺悟せざるべからず。しかして各私鐵は五年中相當その陣容の整備につき苦心したり、六年においても更にその業務を合理化せしめ收支の權衡につき一段の努力を要するものあるべし。これ實に私鐵の試練時代にして一面より見れば私鐵堅實の基礎を確立すべき重要なる時機なり。すなはち禍を轉じて福と爲し私鐵甦生の途を探求すべきこともまた本年における私鐵の重要なる案件なりとす。

要之昭和六年における朝鮮の私設鐵道は眞に多事多難といふべくこの多難の時期において進んで私鐵百年の基礎を確立することは最も喫緊の要務に屬す

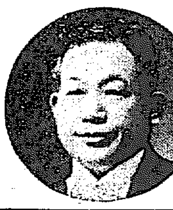


富士　鹿子木孟郎畫伯筆

昭和六年と米穀問題

如何にして米價を正當な價に復せしむべきか

藤井寛太郎



私は昨昭和五年の初頭において金解禁恐るゝに足らず、國民は須らく此經濟國難に際し兩三年間多少の不便を忍ぶも外國品の使用を廢し、國產品を使用せば國內の產業自から發達すると共に國際貸借は輸入超過の既往の常態を一變して輸出超過となるべし、徒らに金解禁の前途を憂ひて萎縮するが如き愚を嗇むると共に、漫然輸入超過の現狀を改めざるの危險を絶叫したのである。幸にして政府當局は頻りに國產愛用を主唱し、國民また漸くこれを理解し來りたる結果、外國品の輸入は大減少を見るに至つたのであるが、生糸の大暴落と輸出の大減少をはじめ全輸出品の減少は依然輸入超過を續け、この一ケ年間約三億圓を越へたる正貨の流出を見たるは甚だ遺憾である我々國民は益々勇猛して外國品の輸入を防ぎ、國內產業の發達を計らねばならぬ。私は今昭和六年の初頭を迎へて更に大に絶叫せんとするものは內地において國民の五割五分、朝鮮においては國民の八割に達する農民を破滅の悲境に沈淪せしめつゝある米價の大慘落を如何にして正當の程度に回復せしむべきかである。夫につき先づ識者に問はんとするものはこの生產費の半ばにも達せざる安價の米を作らんが爲に、內地だけにて實に一億八千五百萬圓の販賣肥料（金肥）を使用し、而かも此內實に一億圓は外國肥料を使用してゐるのである。今日の一億圓は五百五十萬石の內地米が買へる。外國米ならば實に七百萬石を買ふ事が出來るでは無いか。米價の慘落に苦しむ農民はこの不經濟極まる金肥のために供給過剩の米を强ひ上にも過剩ならしめて居るのである我々農民はこれまで帝國人口激增の大勢に順應せんがため全國民の食糧である米の生產は最善の努力を盡してその增產を計り來つたのであつて、米の生產制限などは口にするさへ農民道德に反するかの如く考へ來つたのである。然るに今米の過剩が米價の大慘落を來し、その生產者たる農民の困難するのみならず、國民の最大多數者たる農民の收入減少は自ら購買力の大減少となり、只さへ不景氣なる日本をいやが上にも不景氣ならしむる原因たる事を知つた以上は、外國から一億圓の肥料を輸入して米の過剩を大ならしめつゝある事はあまりに無智であつたと言はねばならぬ。寧ろ輸入超過に苦しめる日本はこれを節約するだけでも對外貸借上一億圓の利益があり、正貨の流出をそれだけ減少し得らるゝのみならず、これに依りて明年度の米作を調節し米穀の過剩を緩和する事は眞に一石二鳥と言ふべき妙案では無いか。勿論日本は十年を通じ未だ米の生產は過剩ではない。寧ろ大に不足するのであるから、政府は一日も早く完全に本年の如き豐作の穀を常平倉に貯藏して他日の凶作に備へねばならぬのであつて、昭和六年の今日まで生產者たる農民は勿論、消費者たる全國民に至大の關係ある米が、假に一年豐作のため供給超過するからとて今日の如く米價の慘落を來たし、全國民が困難するも如何ともすべからざる如き現狀は何たる不合理な事であらうか。結局我々國民の無智を恥ずるの外はないのである。これがため私は去る大正七年米騷動の爲不味の外國米を一石四十圓の高價で買入れ、結局二億五千萬圓の正貨を海外に流出せしめ米の不足に人心恟々たりし當時からこの常平倉論を絶叫し來つたのであるが、今日まで未だ不完全なる米穀法がその效果を徹底せしめ得るに至らざる事を痛歎して止まざるものである朝鮮農會は稻作米價慘落の對策として朝鮮の籾を買上らるゝ樣政府に請願するため私は他の東上委員三名と共に上京して親く首相以下當局大臣に面談したのであるが、米穀法が未だ朝鮮に施行せられておらぬのと、米穀買上資金の殘額が少いため買上の要望をいれられなかつたので更に四千萬圓の低利資金融通を受けて朝鮮總督府で買上ぐる樣努力したが、これまた預金部資金操作の都合で目的を達する事が出來なかつたので種々苦心の末政府の力頼むに足らずとせば、我々農民自力調節の方法を講ずるの外ないと考へて、當時新聞紙上に傳へられた朝鮮米穀調節株式會社の設立を企てたのであつたが、種々の支障と出資の調節力なき缺陷のため實現するに至らなかつた事は頗る遺憾とする所である。それでこの調節會社案の原理とも言ふべき米價の慘落は要するに豐作供給過剩の結果に外ならぬ。この供給超過の全數量を市場より全然遠ざくる事によりて當然米價は一般物價の比率程度迄回復すべき筈である。私はこの調節會社と同樣の作用を法律によつて政府に實行せしむる方法を案出し、本年の初頭に立ちて全國民に贊成を求めんとするものである。

この方法は政府が先づ完全なる國立倉庫を建設し、本年の如く豐作の結果米穀過剩の年はその供給超過の全額を强制的に農民より納入せしめて是を供給不足する年度迄國立倉庫に保管して預證券を發行し供給不足の年度にこれを賣却して納入者に清算すべき法律を制定する事である。（具體案は昨冬本紙經濟面に連載につき省略す）

謹賀新年

京畿道烏山市場　海產物食料品　近澤商店

龍仁郡器興面公立普通學校長　石田登一

龍仁警察署　警部補　伊藤改介

京畿道農會龍仁出張所　生田義治

京釜線烏山驛前　國際通運株式會社指定加盟店　昌明運送部　代表者　金洪洙

朝鮮自動車株式會社　烏山支店　京釜線烏山驛前

龍仁郡器興面公立小學校長　田中義峯

朝鮮水原驛前　雜貨商　磯崎健藏商店　電話一〇三番　振替京城二〇四八番

水原驛前　京城自動車株式會社　專務取締役　宋秉焜　電話一四七番

プリミヤ代理店　鬼追商會　水原驛前通り　電話一七番

水原南門外　湯淺伊平　電話四八番

水原　金曜會

水原酒造株式會社　水原炭業商會　青木爲一　水原南門外　電話三五番

水原南大門外四ツ角（私書函水原局一號）　綿布、糖粉、穀肥、雜貨移出入商　竹下平三郎商店　電話一二六・二二六番　振替京城一四六七番

水原實業協會々頭　香山弘　電話二六番

朝鮮運送株式會社水原出張所　主任　寺澤捨三郎　朝鮮水原驛前

朝鮮總督府水原農事試驗場　水原高等農林學校　農事試驗場蠶絲部

京城電氣株式會社　水原支店

科學知識　正月特大號　尖端科學號

民族衛生學の主張　永井博士
有望なる精密機械工業　青木博士
化學工業界の尖端　田中博士
電氣化學の新生面　龜山博士
家畜の人工授精術　佐藤博士
ホルモン藥と若返　博士
氣球で八哩昇騰　多賀少佐
軍用の自動小銃　青木博士
二重放送と受信機　北村技師長
軍用犬の訓練
緬羊と羊毛の知識　岸・佐田
世界最初の人類　松村博士
北伊豆の大地震　國富技師
電氣探鑛法の話　廣井教授
飛行機の新問題　岩本教授
最近の骸炭工業　大島博士
人力で遺傳を支配　田中博士
赤外線寫眞其他　鎌田教授
常識電氣學　佐野技師
海水發電の成功　S・T生

定價八十錢　送料三錢
東京市丸ノ內二ノ六　振替東京四六〇二
社團法人　科學知識普及會

英國製　B・S・A　自轉車用制動機

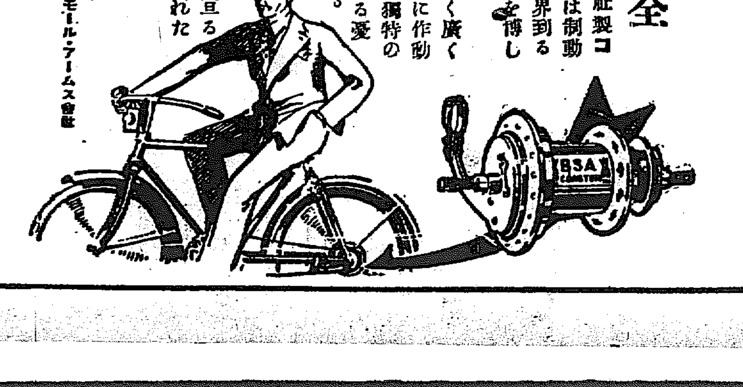
絶對安全

ビー・エス・エイ社製コースター・ブレーキは制動機中の王者として世界到る所に於て絶大の好評を博して居ります。

本機の制動面は極く廣く又常に同壓力で確實に作動するのみならず其の獨特の裝置に依り車輪の滑る憂は絶對にありません。

B・S・A社製コースター・ブレーキの優秀なるは弊社七十年に亘る長い〳〵經驗から生れた物だからです。

製造元　英國バーミングハム市　バーミングハム・スモール・アームス會社

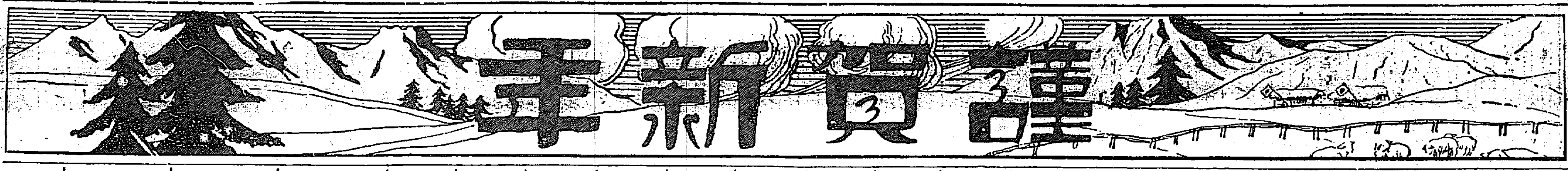


タバコのみの　歯磨スモカ

先づ
口あけまして
おめでとう御座り
奉られるは
スモカ仕立ての
白歯の人品！

定價　十五錢

411



信川 公醫 柳昌萬

沙里院 公醫 平馬隆

沙里院 北里郵便所

沙里院 高宗勝喜

信川郡廳

信川溫泉 古田貫一

沙里院穀物檢査所長 藤井新藏

沙里院警察署長 松本利雄

沙里院邑長 宇佐見盛光

沙里院工務所 町田久壽男

沙里院穀物商 中上喜助

殷栗警察署長 廬立安正

沙里院 穀物商組合

沙里院土木派出所 平塚文三

沙里院公普校長 小松彌八

沙里院公普校長 伊藤一衞

沙里院尋高小學校長 山內眞一

沙里院 專賣局出張所

沙里院 中村伊之輔

沙里院大阪屋 山邊卯八

沙里院郵便局

沙里院農學校長 錦織寶實

沙里院高等女學校長 鈴木瑞枝

鳳山郡廳 職員一同

沙里院驛前 岡田旅館

沙里院驛前 八雲旅館

沙里院土木建築請負業 橫光重義

朝鮮鐵道株式會社 沙里院出張所長 內海就三郎

信川水利組合

於之屯洑組合 於之屯水利組合創立事務所

沙里院 位田嘉七 勾坂惣平

沙里院料亭 新博多屋 同カフエー 伊香保

沙里院料亭 曙

沙里院通運倉庫株式會社

沙里院 井上醫院

沙里院 楊在夏

沙里院 田北政治

沙里院土木建築請負業 工藤茂 西久吉 山口佐十

沙里院 安田靜雄

沙里院 李門在

沙里院 殖產園

信川郵便所

沙里院 宮本荒太郎

池神重政

鳳山炭坑

松岡淸也

京城府本町九丁目 朝日座 大石貞七 電本三三六八番

仁川宮町 靑島茶舖 電話七〇九番

仁川仲町 陶器、石粉、雜貨 日下部商店 電話六九六番

仁川宮町 傘提灯 小柴商店 電話四二八番

仁川宮町 御料理 食道樂 電話一五五番

仁川海岸町 貿易 庄野支店 電話五四番

仁川 中元源五郎 電話五六八番

沙里院金曜會

龍山漢江通十一番地 吉田醫院

朝鮮の別府 釜山郊外（釜山驛より自動車賃九十錢） 海雲臺溫泉館 宿泊料（一泊二食）二圓二十錢から四圓七十錢まで茶代廢止 東洋第二位のラヂウム溫泉（電燈設備完成）

龍山醫師會

東洋製絲株式會社沙里院工場

信川溫泉 宿屋 料理屋 置屋

載寧 載信水利組合

載寧 安寧水利組合

京城府漢江通 山十製絲株式會社 京城出張所

京城府漢江通六番地 龍山工作株式會社 電話龍山 四六八 六二八番

新義州 國境林業組合

新義州常盤町 鴨綠江運輸株式會社

新義州常盤町三丁目二 吉野組

南滿洲安東縣 鴨綠江製紙株式會社

安東縣 日陞公司

安東挽材株式會社

安東木材商組合

國際運輸株式會社 安東支店

安東窯業會社

安東炭友會

安東縣 金子商店

滿洲土木建築業協會 安東支部

安東料理店組合

新義州旅館組合

新義州料理屋營業組合

安東縣市場通四 和洋紙 武藤商店

安東縣 精美館

安東縣三番通七丁目 淸酒 味醂 燒酎 田原商店

安東縣 ダルマ商會自轉車部 田村里次

安東縣 北田榮太郎

安東縣 日之出旅館 釘崎北雄

安東縣 富久壽美旅館

安東縣六番通九丁目二 丸鴨精米所

安東縣 重枝洋行

新義州府常盤町一 平安運輸合資會社 代表社員 松隈六太郎

安東縣 池上常太郎

安東縣 原田市松

安東縣 金虎贇

安東取引所取引人組合
原田市松商店 安東貿易株式會社 大島仲買店 餅盛公司 裕政號 滿洲錢銀兩替株式會社 大一仲買店 大森兩替店 泰昌號 天利公司 恒順際 同益公司 小林仲買店 慶本堅次商店 大臨仲買店 協豐銀號 株式會社德泰公司 東信昌 發合公司

安東縣 日韓組運送店 松本淸豐

安東縣市場通三丁目二 福田商店

安東ホテル

安東縣江岸通四丁目 滿鮮製函木材株式會社

安東縣大和橋通 三巴商店

安東縣市場通六丁目 橫濱堂

朝鮮肥料株式會社

安東縣 紅屋旅館

安東縣 御料理 東雲

安東縣 御料理 由良之助

平安北道各金融組合

平安北道金融組合聯合會

平安北道龍川郡 不二農場

平北龍川郡 大正水利組合

新義州府職員一同

新義州警察署

平安北道 定州郡農會 定州郡畜產同業組合 定州郡森林組合

平安北道立 新義州醫院

新義州 株式會社 丸加商會

新義州中等學校長 今井嘉一 大井利明 長根禪提 諏訪原義衞

平安自動車商會支配人 熙川學校組合管理者 吉村親定 平安北道熙川 電話四番

鴨綠江製材無限公司 滿洲安東縣南三條通五丁目

滿洲鑛山藥株式會社 滿洲安東縣六道溝丁一號地

新義州木材商組合

滿鮮坑木株式會社 安東縣南二條通二丁目九

江界郡廳 江界郡各產業團體 職員一同

新義州製材業組合

平北新義州 鴨綠江輪船公司

木材各種 新義州營林署

新義州電氣株式會社

平安北道廳 食堂會員一同

新義州土曜會

安東縣 鴨綠江採木公司

南滿洲電氣株式會社 安東支店

安東縣銀行集會所

農村の窮乏―
救濟策確立を急ぐ
＝農民自らも目醒めよ

農村は今や飢餓と不安の渦中に投ぜられ、急テンポの荒廢へ押し流されてゐる。見よ！粒々辛苦して働いた農民の手に殘るものは喰込みと借金の山だ。利息や公租公課の支拂どころか、次の農業活動に必要な種子代、肥料代も家族の食料代さへも失ひつゝある。社會が如何なる組織に經營されやうとも、基礎產業たる農業が絶滅してもよいといふ保證は立つまい。然る以上、農村對策は最も強い社會的支持を受けかつ急速に施設されなければならぬ。然らばその方向は何處だ？政府や農會のやりつゝある對策は果して農村百年の幸福を約束して居るかどうか。診斷の適確が名醫の條件であると同樣に農村對策も先づ現下の實情を觀察して後『何にが農村をさうさせたか』を吟味しなければならぬ。

一、農產物價下落の影響

耕作反別一町五反乃至二町歩の所謂中流農家一年一戸當りの總收入は、大正十四年乃至昭和二年の三ケ年平均で自作農千六百三十五圓、自作兼小作農千三百六十八圓、小作農千六十二圓である。これに對し生計費は自作農千四百十一圓、自作兼小作農千百六十五圓、小作農九百一圓で總收入と比較して見ると百六十圓乃至二百二、三十圓の餘裕が生ずる計算である。併し調査農家百八十戸中、喰ひ込みのものが三ケ年平均で約三割に達し然も喰ひ込み農家は農產物價が比較的高い大正十四年は一割八分、價格低落した昭和二年には三割六分に增加した。中流農家にして斯かる狀態であるから、それ以下は推して知るべきである。しかして昭和二年以來農產物價は概して低下の傾向があり、五年には四年よりも更に三割餘（十一億餘）の暴落となり、農家一戸當り實に二百餘圓の減收となつた。こゝに至つて全農家はマイナスの增大だ。農村經濟は斯くて窮乏した。

二、農產物價下落の特殊事情

今日の農村飢餓は、封建時代の凶作飢饉とは全く反對の原因から來てゐる。つまり商品としての農產物の價格が生產費を償ひ得ない點まで低落したことに基づくもので、いはゞ資本主義の下に現れた一現象である。しかし、農產物たるがゆゑに特に暴落した事情は見のがしがたい。

一、農產物の販賣組織は、農民の意志が價格構成に表現されぬ程幼稚である。商工業者は自己の不注意から生じた損害までも農民に轉嫁する。例へば事業主は減資、減配、勤力料引下等充分經營節約の方法があり抵抗力の弱い農產物はこれを値切つて買ふことの出來る一方、販賣協定や生產制限を行ひ、自分が賣る商品の市價を吊り上げる。結局農民は貪慾な商工業者の言ひ値通りに賣つたり買つたりさせられる。

二、商工業者の農村搾取は更に甚く、農村の金は小作料を通じ、公租公課を通じ、銀行を通じあらゆる方法で都會に吸收される加ふるに農村人口は都會への捌け口を塞がれ、却つて歸農者といふ失業者を引受けて負擔が增し、農村からは五十錢銀貨の姿が消えた。然も借金だ、税金だ、肥料代だと取立ては門口に待ち構へてゐる。むざ／＼損とは知りつゝ作り投賣りでもしなければ當座の煙も起たないのである。

三、然も強大な權力を有する政府が、熱心に都會の農村搾取を援助してゐる。租税政策、交通政策、產業合理化政策、失業對策と政府のなすところは總べて都會中心、資本家中心であるといつてよい。米價吊上げや低利資金の融通はあるが、それは現下の農村にとつて二階から目藥である當局の態度が既に『百姓は自分で始末をしろ』といふのだから農村物價の維持も何もあつたものではない。

三、農村の負擔加重

農產物價が暴落してもそれに應じて農家の支出が激減すれば問題は左程切迫しない。然るに農家の支出は殆んど減少して居ない。成る程、肥料代、種子代、農具代、衣服代等は幾分安くなつたであらう。然し煙草代、酒代、醬代、醬油代、電燈料、通信費、新聞雜誌代、子弟の教育費等も使用量を減じたり廢止したりすれば、それだけの支出は節約が出來やう。しかしそれ程にしても二割の緊縮は困難だ。否却つて借金、税金等の負擔は實質的に一割九分ばかり增大してゐる帝國農會調査によると、農家負債總額は五十億圓に達する。その一割五分は實に七億五千萬圓である。いくら節約しても借金の增加にはおよばない。言ひ換へれば農家は出來るだけ節約し、骨身を削つて働いても借金に押され、起ち上るにも上れない狀態だ。況んや五十億の借金は生產資金として借りたものよりも、生活費、子弟教育費、租税支拂、冠婚葬祭等不生產的な用途で借りたものが多く、利率も年一割以上のものが多いに至つては、子孫の代までもつきまとつて農家を苦しめる。

借金と同樣に農村を苦しめるものは公租公課の負擔である。それも商工業と均衡を得てゐるならば、苦情も言ひ得ないが現實の不公平さはどうだ。昭和四年第五十六議會に政府提出の地租及び營業收益税委員會參考資料として大藏省より提示された調査資料を見ると所得千二百圓の場合は、田畑所得者（農家）の負擔は國税六十七圓九十錢、地方税二百一圓九十六錢、計二百六十九圓八十六錢で、營業所得者（商工業者）は國税四十四圓四十二錢、地方税八十一圓八十六錢、計百二十六圓二十八錢となり、農家の負擔は商工業者の二倍一割二分である。同じく二千圓の場合は二倍三割、三千圓の場合は二倍四割で總平均においては農家は同じ所得に對し商工業者よりも二倍以上多く負擔してゐる。更に大正十一年大藏省調査に依ると、收益百圓に對する國税、地方税を合した公課は、農業家十一圓十七錢、商業家九圓二十錢、工業家六圓八十二錢で農家の負擔は商工業者に比し過重であつたが、その後の税法改正、税制整理のため不公平の度は更に增して、現在では二倍以上に達する有樣である茲に封建制度の下の苛斂誅求にも劣らざる農村搾取がある。

四、農村よ何處へ行く

すでに經濟的に破綻を示し、政治的、文化的に差別待遇を受け、思想的に岐路に迷つて居る農村はどこへゆく――

現下の不引合が續く限り、所詮農村は借金による外はない。如何に身を切る樣な節約であり、元利返濟の目算がたゝなくとも、生きてゆくためには止むを得ないのだ。喰込みと借金の累增に應じて農民の土地へのあこがれは薄らぎ耕作の存續に必要な資金は涸渇して土地の生產力は疲弊する。更に生活程度は極度に引下げられ、農民の健康を蝕み、斯くて農村の人的生產力も衰へる。勿論公租公課の負擔力は消滅する。その結果農村自治機關は財政的に破綻し、教育、衛生等の文化施設は勿論自治體として活動を停止するに至る現に小學校教員、役場吏員の俸給不拂、税金滯納屢出し、役場學校の閉鎖説すら擡頭し、農會その他の自治的指導團體は財政的に破產して從來の如き活動をなし得ないものが多い。斯かる農村の破滅への突進が今後の社會に何を暗示して居るか。

窮乏打開の途

五、窮乏打開の途

以下やゝ具體的に窮況打開の方策を述べる。但し非常に廣範な且奧深い農村對策について一々詳細にこれを述べることはこゝには不可能である。しかして現下の窮況打開の方策は大體左の諸項であらう。

イ、生產費の低下と過剩勞力の利用

農業不引合の根本對策は生產費を低下させるにある。その方向は第一に生產費構成の諸要素中現金支出に屬するものを切下げることで、就中肥料代、税金、借金の利子、小作料等の切下げは緊急を要する。第二は技術的に品種の改良、飼育方法の改善勞働操業の機械化を行ふことである。機械化に當つては、機械使用の範圍、それに依り生ずる過剩勞力の利用に就いて最も注意せねばならぬ。何となれば家族的小經營にありては、機械によつて節約された勞力利用の途が立たねば、その勞力は結局當該農家の寄食人となり、機械化に依つて却て農業收入が減少するからである。そこで第二として勞力利用の問題が起る。その方向は經營の改善にある。即ち集約經營、多角經營、共同經營等の研究を要すると共に、商農事業振興の必要に迫られる。

ロ、生產及販賣購買の統制

農業の商工業に對する對抗運動として販賣組織を改善せねばならぬことは前に述べた通りである。而し販賣の統制は價格の構成を支配し得るような強固な機關を作り消費者への中間料を排除し、進んで需要喚起の仕事をなすべきである。同時に肥料、農具その他用品を可及的有利に仕入れるために購買組合等の徹底を期せねばならぬ、何又非常困難事ではあるが生產統制にも新方面を開拓すべきである。

ハ、負擔の輕減

農村の過重負擔輕減の眼目は、先づ租税及び公課に現れた農業者と商工業、俸給生活者の差別待遇の撤廢だ。税制、恩給法の大改革、高給官吏の減俸斷行等も今日の歳出減削策として思ひ切つた租税の免除、減税、延納の許可を斷行しなければならぬ。

ニ、金融對策と農產物價維持

小作料を通じ銀行を通じ公租公課を通じ都會に吸收された富を農村に還元するために特殊の農村金融機關を設け、金融の調節を圖ると共に更に電話、道路、病院等各種の農村施設を講ぜねばならぬ。農工銀行、勸業銀行等が今や全く都市金融機關と化し農村搾取に汲々たることは大いに考慮を要する點である。而して眼前の金融涸渇を救ひ、農產物價の維持を圖るためには、米價、繭價の損失補償も必要であり、更に次の農業活動を活潑ならしむる爲め、肥料代、種子代及び生活費の一部を含む巨額の低利資金を融通する必要がある。一億圓位の金高では到底間に合はない。

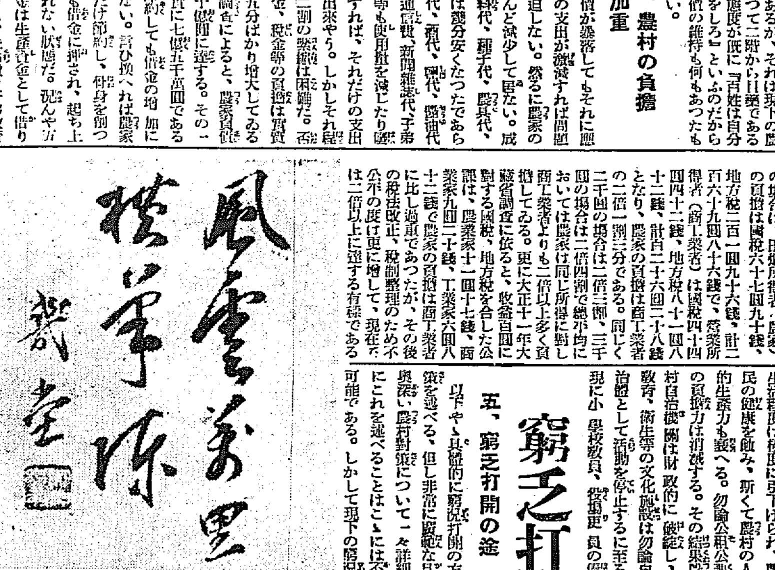
ホ、農家負債の整理

帝國農會、全國町村長會、產業組合中央會の三團體が協議し農林省とも提携して負債整理の具體方法を研究して居るが、さきに決定した大綱を見ると餘り期待は出來ないように思ふ。寧ろ此の際長期間のモラトリアムを行ひ其の後農家の餘裕を待つて、長期の年賦で償還し得るよう方策を樹てなければならない。現に此の方法は國際汽船會社や日本棉花會社の場合、政府が行つたことのある方法である。震災手形整理のためには政府は數億の金を棒に振つて、小數の銀行會社を救濟して居る。三千萬人の農民の危急存亡の場合である。政府はこの位の援助が必要である。

ヘ、農民の自覺と協力

以上は農村對策の極めて重要な一部分に過ぎず、數へ來れば際限がない。さりながら、如何に對策を例擧すればとて、農民が自覺せず、實行の熱心を缺くならば全く無駄である。人類の歴史は民族社會、封建社會から近代の資本主義社會に至るまで總て農民酷使又は農民搾取の哀話に綴られて居る。爛爛たる奈良朝時代の文物も近代の文明も實は農民の涙と膏血の結晶に外ならぬ。然も農民は過去において武家の一刀兩斷の下にさらされ乍らも、よく明治維新の大業を成し遂げた。まことに止むに止まれぬ農民團結の力であつた。然るに近年の農村も、都會に依つて蹂みにじられ、富を搾取せられ、封建治下にかけるよりは以上の苦難を嘗めて居る。然るに維新後の農民は自身の解放と資本主義の覊絆にかゝつて往時の反撥力を失つて了つたかのようである。代議制に依る政治の運用にすら、農民の意思を反映することが出來ない程偶坊化して終つた。農民が眞に農村社會に醒めて起たぬ限り、農村の荒廢は益々速度を加へるであらう。なまやさしい施策などは決して農民の本領ではない筈だ。而して光明の途を開拓するものは農民自身である。農民協力の力である。

富嶽　彫刻家　山崎朝雲氏筆



町田農相筆

金解禁後の一年間（下）
―金融界＝貿易及物價から事業界＝證券界を顧みて―
さて今年は如何に

貿易及び物價

金解禁以來世界的經濟恐慌、就中米國の深刻なる不況、銀塊相場暴落による支那の購買力激減、印度、滿洲、米國その他の關税引上げ、印度の內亂と外國品不買同盟等の諸原因重なり、我が

對外貿易 は極度の不振を示し實に慘憺たるものがある即ち一月以降十月迄の累計を示せば左の如し。（單位千圓）

		前年比較減
輸出	一、二三六、五三一	五八一、一〇四
輸入	一、三三一、六〇六	五六八、八一〇
計	二、五六八、一三七	一、一四九、九一四

しかして主なる輸出入品增減を示せば左の如くである（單位千圓）

	本年	前年比較減
輸出		
小麥粉	二一、〇三四	一一、八〇〇
綿織糸	一五、四三九	八、二四五
生糸	三三四、八〇三	三一七、一二七
綿織物	一〇〇、四四〇	一四一、三八五
絹織物 人絹織物	一〇〇、四四〇 〔一六、九〇〇〕	四〇、三三七
輸入		
小麥	三六、七五四	三六、一四三
棉花	三三一、八〇〇	一八六、九〇四
羊毛	六三、二三六	二七、四四三
鐵	八〇、三三六	四九、八二三
機械類	五五、九九九	三〇、三六四
木材	四七、五二五	三二、三〇六

即ち輸出において小麥および綿糸の著しく減少したのは銀塊暴落以來支那における購買力の減退を雄辯に物語るものである、從つて一月以降十月迄の對支輸出超過累計は九千二百六萬七千圓と前年に比し五千九百八十八萬七千圓の激減である。生糸および絹織物、絹および人絹織物竝に綿織物等の減少は米國その他歐洲諸國の需要減退、印度の關税引上げ・外國品不買同盟に基因する事勿論である又輸入において小麥、綿花、羊毛の減少は輸出不振と國內消費の減少により鐵、機械類の激減は造船事業の不振、製鐵工業の不況に洗しを示すものである。木材の減少は關税引上以來の現象であるが、建築用としても需要減少が有力なる原因である。しかして輸出入品の減退と同時に

國內物價 の低落を誘致した。即ち十月中の重要商品物價指數（日銀調査）は左の如く、總平均指數一六四、六で前年同月に比し實に五一、六即ち三割一分四厘の激落である

五十六品の內	十月	前年同月比較低落
米	一二二	一〇一
小麥	一三六	八〇
砂糖	一二九	四六
生糸	一五五	九二
綿糸	一四五	七五
木材	一三〇	四二
洋鐵	一五七	三一
銅	八六	四六
洋紙	一五五	三三
石炭	一三八	三九
五十六品總平均指數	一六四、六	五一、六

事業界

金解禁と世界的經濟界の不況に各種產業界は需要の減退と製品價格の低落に大打撃を蒙り、何れもこれが對策として生產制限に活路を見出さんとしてゐるが、たほ效果を收むる能はず益々苦境に陷りつゝある、その主なる事業別左の如し。

產業別	操短率
紡績	三割四分四厘
生糸	十一時間操業を十時間に短縮
セメント	五割三分二厘
製紙（印刷用紙）	三割九分
石炭	二割三分
晒粉	四割九分
過燐酸	五割九分
丸鋼	五割
人絹	二割
絹紡工業	三割五分

右の中紡績 は六月一日より九月末日まで二割休錘、四割深夜業制實施によりて三割四分四厘の操短を行ひ、九月末期限到來後各社の態度決定に至らなかつたが、十一月八日聯合會委員會の結果更にこれを昭和六年二月末日まで繼續することに決したのである。生糸は六月一日より十二月末日まで操業短縮を實施し、昭和六年においては三月中全休の豫定である製紙操短實施期は一月より二ケ年間、石炭は十一月一日より十二月末日まで過去一ケ年の實績炭高二千五百九十一萬トンを基準とし、この一割二分の送炭制限、過燐酸は十一月より昭和六年二月末日迄人絹は九月十五日より向ふ三ケ月何れも操短繼續の豫定である。

證券界

金解禁に因る影響の顯著なるものは大體既記の通りであるが、更にこれを最も明瞭に表はしたものを指摘すれば即ち有價證券價格の變動である。東京株式取引所の調査に據れば十一月一日現在の全國有價證券時價總額は株式百六億五千萬圓、債券百二十億九千七百萬圓合計二百二十七億四千七百萬圓これを濱口內閣成立の昭和四年七月に比すれば五十一億五千八百萬圓、金解禁實施の昭和五年一月に比すれば三十二億六千五百萬圓の大暴落で、金解禁による犧牲も亦尠からざるものがある。併し乍ら日本銀行利下げ、興銀の平價償還と株式買入等の好刺戟で有價證券の價格は漸次立直しにしたゝめ十月に比すれば八億一千百萬圓の昂騰である。たほ十一月一日現在の東京株式取引所長期上場株式の時價總額は二十億五千五百九十萬五千圓、一株五十圓當り時價は四十四圓六十錢で、これを前月に比すれば時價總額において一億六千百五十五萬七千圓、五十圓當り時價において二圓五十四錢の恢復は

事業界更生 の一面を表徴するものであらう。因みに右の分類別による時價および一株五十圓當り時價は左の如くである

分類別	十一月一日現在時價總額（千圓）	一株五十圓當り時價（圓 錢）
公益事業	一、五六八、〇一七	三六、六二
金融及保險	二〇九、一一〇	四〇、二九
鑛業	三三七、九八四	四一、三八
纖維工業	二五六、四〇五	四三、一九
製造工業	四〇八、三二二	三七、四四
各種商業	一四一、〇三四	三六、九〇
海運及鐵道	八〇、一四〇	三三、三六
雜業	六八、四〇四	二三、〇四
取引所	一八〇、一二〇	一三九、八〇
合計	二、〇五〇、五四〇	四四、六〇

右の中紡株時價總額は十八億五千九百二十三萬九千圓、新株六億九千百三十五萬六千圓で、一株五十圓當り時價は舊株三十九圓七十五錢、新株四十一圓卅一錢である

金堤木曜會
石橋進牛大近森杉
川本中島迫藤川山
宗四信信貞正
郎央赫夫義捨三重
裵平高野上濟本
安垣坂崎口山
錫寺
安好宗信淸文
讃夫藏吉二二男

金堤
金堤土曜會

全州
亥角仲藏
電話四四六番

井邑郡永元
西村組永元水利組合
工事事務所

全州本町
松本福市
電話一三一番

端川邑內公立學校團

賀正

開城郵便局長

日之丸組開城出張所
高木樹
電話四〇六番

開城大和町
水野憲

土木建築請負業
久我幸兵衛
電三三七番

開城府協議員
金正浩
電二四番

漢城銀行
開城支店

開城府協議員
朴尙玉
電一二〇番

開城運送倉庫株式會社
電話一五一番

開城府協議員
八木右一
電二六番

長湍警察署長
野口謙吉

朝鮮 支那 料理
大成館
電二二三〇番

京畿道評議員
金永澤
電二七番

開城醫師會

開城府尹
金秉泰

咸南咸州郡
西湖津郵便所

咸南咸州郡
興南公立尋常高等小學校
職員一同

咸南北靑郡
楊川公立普通學校
職員一同

咸南新興警察署
職員一同

咸南西湖津港
中澤六郎

咸南西湖津港
西湖水產株式會社
取締役社長 金洙梧

咸南西湖津港
安東養狐場
第二水月
電話一九番

咸南興南面天機里
小山時計店

咸北城津本町
石鍋石釜製造元
藤井商店
電話一二番

城津本町
城津黑鉛鑛山 大同金山 醴泉金山
野崎鑛業所

咸鏡南道大新里
關鑛業合資會社
代表者 關島吉
支配人 飯尾義人

裡里公立尋常高等小學校
職員一同

全州大正町
普永自轉車店
電話二四八番

全州大正町
別府自轉車店
電話二〇二番

全州大正町
日の丸旅館
電話二一〇番

全州大正町
菓子司壽保羅堂
電話一〇六番

內務局裡里土木出張所
職員一同

全州大正町
金物 石油
大木良作商店
電話一九番

仁川濱町
鹽專賣局仁川出張所

仁川濱町
朝鮮運送株式會社仁川支店
電話長 五二（發送係專用） 一四三（到着係專用） 三四八（近關用）

仁川花町
株式會社 奥田精米所
電話長六〇八番・七〇五番

鮮航同盟會仁川支部
（いろは順）
日鮮海運株式會社
大阪商船株式會社仁川支店
高杉商店回漕部
慶田組
國際通運株式會社仁川支店
朝日組回漕部
協同海運商會
島谷汽船株式會社仁川出張所

裡里警察署
署員一同

咸南安邊津港
同濟醫院
廉璟薰
電話五番

咸興盤龍山邑內
御旅館 寶來館
小田又一

株式會社
宮川組

京城府公平洞
大昌貿易會社
電話光化門六一一〇・七三七・一四二七
大昌貿易會社鐘路出張所
電話光化門六九五

日本航空輸送株式會社
京城營業所
京城支所

朝鮮煙草元賣捌株式會社
大邱營業所
丸登之助

上仁川驛
驛長 藤原熊雄

惠山鎭公立尋常高等小學校
惠山鎭公立普通學校

朝鮮皮革株式會社
朝鮮永登浦

京城府旭町一ノ六六
京和亭
安村キミ
電話本局三二二一番

京城府本町一丁目四八番地
電氣機械器具 電氣材料販賣 電氣工事請負
越田電氣商會
電話長本局一四三〇番
振替口座京城六五六七番

京城府北米倉町九三
蓬萊閣
電話本局一八五九番

京城府竹添町二ノ九九
柴田組
電話光化門一六八〇番

木浦府山手町　寶屋旅館
新築落成　朝湯設備

辛未新年紙上名刺交換會

松本誠 朝鮮總督府專賣局
深澤新一郎 朝鮮總督府
兒島高信 朝鮮總督府
陣內茂吉
大久保眞敏
[illegible]
戒能義重
和田俊一 共濟信託株式會社
近藤雄(?) 京城郵便局
渡邊龍

湯村辰次郎 朝鮮總督府
押原參吉
廣安重朗
[illegible]
萩原彦三 朝鮮總督府
安藤袈裟一 京城府尹
穗積眞六郎 朝鮮總督府
福崎濱之助 松竹直營大正館
島田利吉
山本犀藏 朝鮮總督府遞信局

佐藤剛藏
月本政次郎
[illegible]
菊山嘉男
[illegible]
立田清辰
新田義民
田中武雄
岩佐重一
神尾弌春

韓昌洙
岡島行續
古庄逸夫
釜山 小山忠秋
李昌根
[illegible]
西龜三圭
[illegible]
西岡芳次郎
[illegible]

[illegible]
榛葉孝平
釜山 立石良雄
池田角平
[illegible] 大邱資料製紙所(?)
李恒九
釜山 [illegible]
木谷重榮
釜山 [illegible]
吉岡三浦

[illegible]
釜山 [illegible]
秋吉正夫
釜山 [illegible]
釜山 [illegible]
釜山 小宮萬次郎
三橋孝一郎
釜山 [illegible]
釜山 [illegible]
釜山 [illegible]

世界を洗ふ失業狂瀾
速かに妥當なる對策の實行を待望

一

失業の聲に驚かされてゐるのは獨り我國だけではない。世界いたる國、極く少數の國を除いては、いひ合せた樣に失業問題になやまされてゐるのである。米國に不景氣の訪れる事なしとまで著名な經濟學者ニクストン・カーヴアーをして好景氣を誇らしめた米國、昨年秋突如ウオール・ストリートを襲つた株式の大崩落さへ一時的現象に止るであらうとの樂觀的豫言を世界的貨幣學者アーヴイング・フツシヤーに發表させた程の米國の經濟界も今や全く豫想を裏切つて事業界は益々沈衰する、失業はより一層深刻化するといつた大變難の態である。獨り失業問題の埒外に立つて涼しい顔をしてゐるのはフランスのみである。

◇…**佛國** そのフランスの事情は聊か他國とは異るものがある。由來フランスは人口の減少する傾向があると共に、歐洲大戰において最も人口の打擊を受けた國家である。更にフランスは地方において中農が多數を占め、從つてアメリカの如く職業勞働者といふものは殆んど存在しない。都會においても內外國債その他の證券類に投資してゐる小市民的利子生活者が多數である。かくの如き事情がフランスを失業問題から救つてゐる理由である。

伊太利は如何？ 不幸にして伊太利の失業統計は不明である。更に假りに伊太利政府が失業統計を發表したにせよ、現在の如き獨裁制に近い政情では自國の權威のためにする宣傳以外にニユースの流布される事を好まぬフアシスト政府の發表に信をおくことの出來ぬのは、恰もソヴイエト・ロシアのそれに百パーセントの信賴を置き得ないのと同じである。然し世界經濟の一構成單位として、且つ資本主義制度の下にある近代產業國家としての伊太利が世界に澎湃と漲る現下の失業狂瀾の渦に卷き込まれてゐない筈はない。

露西亞は如何？ （露西亞は未だ完全な共產主義國家ではないが、然し世界經濟からは多少とも隔離された存在であつて世界經濟狀態からは直接的影響は蒙らない。然しその失業者數を約百五十萬とする推定もある。ソヴイエト當局最近の發表に依ると工業勞働者は寧ろ不足してゐる位だとある。これは最近五ケ年計畫遂行の結果であると見るべきだが、何れにしても露西亞の失業者の大多數は農業勞働者より工業勞働者への過渡期に於ける過渡の過程にある勞働者か、若しくは職業紹介所の指定する職業に就くことを好まない『自發的失業者』かの何れかであらうと考へられる。そればかりでなく露西亞の失業者は社會保險により、或は勞働組合基金による手當により、または保險醫藥等の支給に依つて相當の供與を受ける規定が存在してゐるので、失業手當法の保護を受ける英國の失業者よりも尙一層完全な生活の保證を受けてゐるとも考へられるので、此の國に於ける失業は少々その性質が異るものと見らるべきである。

二

◇…**英國** 然らば近代產業の祖國英國の失業狀態は何うであるか？英國は大戰以來、殊に、金解禁以來、日增しに增加し行く失業大群の仕末に惱まされ續けてゐるのである。英國は現實的な勞働組合の發達してゐる國であつて急進的な運動や惡化はない代りに、漸進的かつ堅實な手段によつて勞働組合は賃銀、勞働條件等の改善を計り、失業に際しては失業手當を受ける制度にまで漕ぎつけた。この制度の存在によつて英國の失業者數はかなり正確に判明する仕組になつてゐるが、最近の統計によればその失業者總數は實に二百二十六萬三千人を算してゐる。これは現マクドナルド勞働內閣の出現以來正に二倍に近い增加であつて、失業救濟を綱領の一枚看板ともしたマクドナルド內閣に取つては、この上ない皮肉であるが、それだけに現在の失業がどうとも仕末の惡いものである事を示す一つの例證ともなるのである。

◇…**獨逸** 又ドイツの失業者數は最近では三百三十二萬三千といふ驚く可き數字を示してゐる。ドイツはいはゆる產業合理化の本家本元であつて、產業合理化のモツトーの叫ばれ初めた頃よりしてすでに失業者の增加が憂慮されてゐたのであつたが、一方に合理化による機械の人力代用、他方に世界を蔽ふ不景氣の襲來によつて、其失業統計はかくの如き大なる數字を示すに至つた譯である。ドイツにおける一九三〇年度末の失業者增加は誠に物凄いものであつて時には二週間（十月十八日—同卅一日）に十三萬六千人もの增加を示したことさへあつた。

◇…**米國** 米國に就ては先きに述べた如く、米國民の豫期してゐたフーバー景氣も一場の夢と化し、株式市場の慘狀と米國に於て極度に發達した月賦販賣制の行き詰りとは今のところ前途に益々暗影を投ずるのみであつて、其の失業者數は三百萬乃至五百萬と推定されてゐる。

◇…**日本** 日本における失業者數も米國と同樣に正確に知るべき手段が存しないので、詳細は不明ではあるが、かつて當局の發表した三十萬余といふ如きは余りに少數であつて、專門家の推定では恐らく百五十萬前後であらうといはれてゐる。

三

以上に大體述べた如く世界各國の失業者數は巨大な數字を示し目下一層◇…**增加**の兆こそあれ。不幸にして減少の傾向は見出されぬのである。失業とは經濟學上の定義によれば『働く意志と能力とを有しながら職業にありつけぬこと』である。かくの如き意味における失業者數が今まで記した數字であつて、更に全然仕事にありつけぬといふ失業以外に所謂半失業即ち從來の生活標準を保つに足る充分な仕事を見出し得ず、多少は仕事にありつけても生活標準を低下せざるを得ない狀態にある者を加へれば、その數字は全く驚くべきものになるに相違ないのである。

失業は不景氣とは切り離すべからざるものである。好景氣時代においても失業は必ず存在するものではあるが、その數は少く、その狀態も決して極度に悲慘なものではない。從つて失業のおよぼす社會的影響も別段憂慮さるべき程のものではない。さりながら現下の如き狀態にあつて澎湃として襲ひ來る失業の波は拱手傍觀するには余りに重大でありかつ危險である。目下の狀態における失業の原因を知らんと欲するならば、我々は先づ不景氣の原因を探究しなければならぬ。

失業と不景氣

現在の世界的不景氣の原因に就ては大體二つの說が經濟學者間に存在する。その一はロシアのヴアルガ、その他各國の社會主義者によつて主張されてゐる所の、現存する資本主義經濟制度それ自體に內在する缺陷說であり、他はグスタフ・カツセルおよびケインズ等の經濟學者によつて唱へられつゝある現在の貨幣制度における缺陷說である。これ等二つの學說の當否はしばらく措き、目下の深刻なる失業問題の解決への途は、先づ景氣回復の手段を講ずるか、或は一步進んで資本主義經濟の特徵である景氣循環の如き現象を永久に驅逐すべき新制度を樹すべき努力をなすかの外にはない。急激なる變化を避けんと欲するならば、目下の如き深刻なる不景氣と失業とに對して一刻も速かに妥當なる對策を考究し、實行すべきであるはいふをまたないのである。

「寶船」 武藤山治氏筆

水野錬太郎氏筆

失業對策は如何に

應急策は起業
失業保險制度を制定せよ

研究會 塚本清治

失業問題は世界各國何れの國も困つて居る問題である。

失業救濟として最もよいのは失業者を出さないといふ事である位は誰でも知つてゐるのであるが、しかし、現下の國家財政および經濟界の實情から見て失業者を出さないといふ事は出來ない。即ち政府は根本的に財界の立て直しをなすために產業の合理化を行ひ、財政の基礎を固くするため緊縮政策を採らねばならぬ實情にあるのであるから、どうしても失業者が出る故にこの失業救濟については別に考へなくてはならない。まづ失業者救濟の應急策としては、日傭勞働者に對しては國家および公共團體において土木事業を起して失業者を救ふより外はないのである。

これは日本ばかりでなく、各國何れの國でもさうであつて、英國の如きは既に上下水道とか港灣の如きは出來てゐるので失業救濟のためには道路工事を起すといふことが唯一の道とせられ道路工事を起せばセメント事業も起り種々關係方面の事業が起るといふことになるのである

それで政府は從來も失業救濟のためには多く地方債も認め、延人員六百何十萬人といふ失業者を救濟してゐるのであるが、更に來年度は、失業公債を發行して國家自ら失業救濟の事業を起すと同時に、地方公共團體に對してもその施設をなさしめるといふ方法を講ずる事となつたが、こゝに困るのは熟練勞働者である。

熟練勞働者は使用者側でも一度手離すと好景氣の時直ちに集めることが出來ないのであるからなるべく離したくないのであるから過剩勞働者に對しても直ちに解雇することなく、一人分の勞働時間を短縮し居殘り勤務を廢し、休日を多くして解雇者を少くするといふ方法を取る樣政府より間接に使用者に注意を促してをり、使用者側でも大分實行してゐるが、これは一層廣く實行される樣にしたいと思ふ。又政府は地方廳の手を通じて余裕のある人に對し失業救濟の意味で建築等をする樣奬勵してゐるのであるが、これなども徹底的に行はれる事となれば、相當の效果があらう。以上が應急的失業救濟策であつて、恒久策としては失業保險制度の如きものを作る必要があると思ふ。

緊縮政策の破棄が緊切事

貴族院交友俱樂部 長岡隆一郎

失業救濟と緊縮政策とは兩立するものではない。現內閣は緊縮政策を行ひ五億圓以上の事業をやめてしまつたのであるから、それだけ職業の供給を禁じてしまつたやうなものである、そして二千萬圓や三千萬圓の失業公債を發行して事業を起した處で何になる。眞に失業の救濟をする考へならば、緊縮政策をやめて積極政策を行ふべきである。政府は公債を發行する事を非常に惡い樣にいふてゐるけれども、現下の實情はそんな呑氣な事をいふてゐる時ではない。失業者が群をなして生活苦を訴へてゐる筈なのだ。それから少なくとも失業者を增加する事だけはやめなくてはならないのであるが、政府は依然として緊縮政策を行ひ、失業者の增加を計つてゐるのは何事であるか

現內閣が金融資本といふ大の虫を生かすため、勞働者の生活の如きはかまはないといふ肚かも知れぬが、それも一つの主張として見る事が出來るかも知れない。併し五億圓以上の事業をやめて二千萬圓か三千萬圓の失業公債を發行して形ばかりの失業救濟をするといふ事は何の事であるか解するに苦しむ。現內閣の政策を見ると、子供が疫痢にかゝつて死ぬか生きるかといふ大騷ぎの時に金を使ふのが惜しいから、入院させずにその枕元で忍耐と努力とを強いてゐる樣なものだ。公債を發行するとは國家の借金を增すこととなるけれども、國家として必要だけの金は使はなくてはならないのであつて、借金しても病氣を治すだけは何よりも先きにしなければならないのである。而して借金を如何にして支拂ふべきかといふ事は病氣が治つてから考へてよいものである。現在の如き民間の事業が萎縮した時には國家及び公共團體が公債を發行して土木事業を起すとか、勞働者の家屋を作るといふ樣な方面に職業を增進させるより外ないとはわかり切つた話なのであるのに、現內閣の人にはこれがわからないのであらうか、實に心外である

失業救濟の恒久策としては、失業保險制度か、失業手當の制度か、失業基金制度を設くるより外ないのである。殊に日本の如きは失業基金制度を最も考究すべきであると思ふ。失業基金制度といふのは好景氣の時に國家や公共團體は事業を中止し、余裕金を積立て不況の時に事業をおこして、失業者を救ふのであるが、斯樣な恒久策は現在の間に合ふものでないのであるから、一日も速かに失業者を增す緊縮政策を放棄するのが、最も急務にして適切なる失業救濟方策である。

失業保險法制定を熱望

社會民衆黨書記長 赤松克麿

今や曠古未曾有の失業地獄時代が來た。失業、半失業の生活不安は重苦しい黑雲のやうに、都市、農村、漁村、山村の隅々まで襲ひかゝつて來た。しかしてこれに對する政府の政策は、あまりにも不徹底であり姑息的である。我々は恒久的對策としては是非とも失業保險法の制定を要望する。失業保險法はすでに各先進國において制定して居るものであつて、我々は一日も早くその制定を見んことを切望してやまない。當面の緊急對策としては、黨利黨略的色彩を排除した公企業の興起を大々的に實行すべきだと考へる。これがためには非募債主義を改めねばならぬ。金融資本家本位の政策に終始して失業救濟の事業までも差控へることは、全く無產大衆を殺人的窮境に追ひやるものである。一言にしていへば、我々は有產階級負擔の方法において、失業救濟を徹底化せんことを極力主張する。

失業救濟は國家當然の責任

民政黨 杉浦武雄

『何時の時にも失業者は存在するわけて今日は不景氣だ失業者の增加するのは當然である次第に增加し行く失業者をどう處置するかは容易ならざる問題であるが、今更の如くびつくりするにはあたらない。』といふ考へを有つてゐる人が多い樣だ。かういふ考へを有つてゐる人に限つて『やがて好景氣がめぐり來れば自ら失業問題は解決せられるであらう』といつた考へをして居る。自分は景氣不景氣循環論をそのまゝ信じない。もとより好景氣が天井知らずに行つて仕舞ふ筈もなく、不景氣底知らずに行つて仕舞ふ筈もないから、景氣と不景氣とは循環的に來るといふなら、これを否定しやうとは思はぬけれども、『今日このまゝの社會組織、經濟組織の下において、景氣不景氣が繰りかへされつゝ結局物質文明は次第に高度に登り行くものである。』といふ意味における循環論はどうもなり立たぬと思ふ。端的にいへば今度の不景氣は今迄の不景氣とは質が違ふ。

『今日迄の物質文明の進展を見るに、好景氣の時に蓄積せられ躍進する、やがて不景氣が來ると停滯し、消費せられる、而しながら結局のところに於て文明は次第次第に高度になり行く』と云ふやうであつたが今度のは譯が違ふ。『社會組織、經濟組織をこのまゝに置くかぎり今日迄に蓄積したものを消費し盡しても未だ好景氣は回復せず躍進した以上を後戾りしても未だ喰ひ止めるわけに行かぬ』と云ふのが實際の狀況である。從つてやがて景氣が回復して來れば失業者も自ら減少するであらうなどと見て居るのは餘りにも呑氣であつて現實の見方に缺くるところありと云はねばならぬ。我等は景氣回復が同時に失業問題解決の基調を爲すものであるとの見方には全然贊成することが出來ない

今日財界對策について議論する人は一樣にいふ。『今日の不景氣は世界的不景氣のあらはれである日本特有の事情もない事はないが大體において世界不景氣が我國の不景氣の因をなしてゐる。從つて世界的不景氣の原因を取り除くにあらざれば眞に日本の不景氣を喰ひ止める事はできぬ。世界不景氣の原因は

一、米國、佛國に金が集り過ぎたため爾餘の世界各國民の購買力が減じ物資が動かなくなつた事

二、世界的農產生產物の出來過ぎのため農產物の價格が暴落して農民の購買力を減少せしめた事

三、無計畫なる生產事業と機械能率の向上のため工業生產物の過剩を來たし生產者が立行かなくなつたこと

をあげてゐる。我等はこれに異存はない。又不景氣救濟の方法として、米國やフランスが外國に對して資金の供給を計る事を希望すると同時に、農業、工業兩方面に向つて生產を計畫的に行ふ。即ち產業の合理化を行はなくてはならないと主張するのに對しても異論を發する。只この際明確にして置かねばならない事は、產業の合理化をやるに當つて、優良機械の利用といふ事だけは承認しなければならぬといふ事だ。即ち能率のあがる機械の發明を阻止するとか、利用しない事にするとかして生產の調節をはかるといふ態度をとれば可成り通つた社會狀態、經濟現象があらはれてくると思ふが、今のところこんな事は誰もが考へてゐない。各々有能な機械を發明し使用して行かう、それが文明だと考へてゐると見てよい。

そこで產業の合理化は最も能率の上がる機械を使用しながら、生產過剩にならぬやうにやつて行くといふ事に歸着すると思ふ。機械能率が著しく向上したために人の勞力は極端に必要さを減じ極端なる場合を想像すれば、機械とこれを操縱する少しの職工とさへあれば、他に勞働者は必要でないといふ世の中が想像せられる。少くともその方向へ進むのを物質文明の理想としてゐるのは確かだ。果して然らば今日の程度の機械を使用し今日の程度の設備をした事が不景氣の原因で、若干の設備を廢棄してかゝらねば經濟が常態に復さぬとすれば、將來益々機械能率が上がるやうになれば、益々設備の方は少くなることになり結局失業者は次第に增して行くことになる他はない

そこで自分は思ふ。產業の合理化で不景氣は直るであらう。けれども同時に失業者は次第に增加する。やがて好景氣がきたならば、失業者問題は自ら解決するといふ見方は少くとも若干の修正がある以上僕等のやうな見方をすれば將來今日のまゝの社會組織、經濟組織が維持せらるゝかぎり、失業者は當然に增加せねばならぬ。而して此の失業者は社會組織、經濟組織當然の產物であるから、國家がこれに對して責任を負はねばならぬことになる。即ち國家は一面に於て經濟組織の爲めに產業合理化をやる。同時にその結果現はれて來た失業者は當然の理として無限に絕對に救濟責任を負ふと決心する他はない

今政府のやる處を見るに失業者は移動性が少ないといふ理由の下に一應各府縣に向つてその救濟方を求め、これでなほ始末がつかぬ場合は國家が責任を負ふといふ態度をとつて居るやうであるが、これはよいと思ふ。只我等は同樣な確認してやるのと、仕方なしにやるのとでは甚しい相違がある。今の場合、失業救濟を國家當然の責任であると皆が考へるやうになつて欲しいとつくゞ思ふ。

榮羅金曜會
殖產銀行榮山浦支店
十八銀行羅州支店
錦南金融組合
羅州金融組合
榮山浦金融組合

大興電氣株式會社
榮山浦支店

全南羅州
和洋御料理仕出し
松竹樓 電話四七番
外 藝妓一同

全南羅州面
職員一同 電話四三番

賀正

羅州警察署
職員一同 電話五番

朝鮮湖南線 羅州工藝品製作所
美術竹細工品 竹製縣簾扇 竹火鉢盛籠 竹寄席竹
山崎喜造 電話十六番 振替京城五〇一四

全南羅州 京城日報通信販賣所
雜貨 陶器 文具
尾崎商店 電話三〇番

全南羅州
一福樓 內
八千代 すみか 一次 福次 小蓮
春駒 わち 音丸 時松

全羅南道
羅州郡廳 職員一同 電話四番
羅州郡農會 電話四九番

全南羅州本町
土木建築請負業 小野田セメント特約店 內鮮人向雜貨
久民藤太郎商店 電話五七番 振替光山二二一番

國際通運株式會社
羅州取引店
牧原新一 電話六一九番

羅州公立普通學校
羅州公立農業補習學校
職員一同 電話三三番

光州日報羅州支社
司法代書業 行政代書 貨物自動車營業
富士生命保險會社代理店
出口留記 羅州郡城町 電話九六番

全南羅州本町
御料理
一福樓 電話二四番

全南製絲倉庫株式會社

全南羅州本町
都市金融組合理事
細谷定 電話七番

忠州金融組合 電話一九番

忠北線 忠州驛長
熊野寛治

忠北忠州邑明町
酒造業
大瀬由平 電話三二番

忠北々部道酒造組合
理事 金在[illegible] 電話一〇六番

殖產銀行忠州支店長
井村定省

忠州大手町
朝鮮鐵道自動車
忠州營業所 電話一八番

忠州本町
雜貨商
原口一二 電話二三番

忠一醫院
鄭奭熙 電話忠州錦町一三五番

忠北線忠州驛
忠州運送店組合

忠州警察署長
宇田

忠州錦町
公醫
辻哲二 電話三三番

朝鮮忠北忠州
熊谷果樹園 電話一二九番 振替京城一三九九六番

忠州本町
李春雄

忠州郵便局長
矢野祥助

忠州面長
秋山文雄

忠州公立農業學校職員一同

忠州公立普通學校職員一同 電話一二・一三四番

忠州公立小學校長
田中吾右衞門

忠州第二土木管區

忠州龍山里
岡田酒造場 電話六一番

忠州錦町
雜貨商
三友商會 電話一〇七番

忠州郡醸造商團?
錢龍起

全南榮山浦
大阪ウチコ商會全南代理店
藤井農機商會 電話七〇番

全南羅州
和洋御料理仕出し
櫻亭 電話三三番

全南羅州郡榮山浦
醫院
高田讓 電話二四番

羅州郡細山水利組合
組合長 伊丹萬吉
書記 吳升祿

全羅南道蠶種業
組合長 馬淵甚吉
自宅 全羅南道羅州本町 電話一一番

羅州
御料理
女一同

羅州本町
御料理
なごや亭 電話四六番

全南羅州郡金川面
石川蠶種製造所 振替京城三二四二番

全羅南道羅州郡金川面
羅州公立普通學校長
式部實

全南羅州郡金川面
馬淵果樹園

全南鶴橋面
時村政車

羅州合同運送店
店主 今野直松 電話六番 振替京城三三二九番

全南榮山浦
商工會長
岩津保次 電話六番

全南榮山浦消防組
組頭
阿部萬吉 電話二八番

全南榮山浦公立普通學校
職員一同 電話一〇四番

榮山浦漁業組合長
北島春吉 電話五二番

千代田生命 大正海上火災保險株式會社 朝日生命 代理店
長田勝之助 羅州邑 電話四八 振替京城九四八二番

十八銀行羅州支店
支店長
林田杢馬 電話二八番

全南榮山浦
醫院
黑住猪太郎 電話七番

全南羅州
金物商
川勝商店 電話六四番

果樹園 羅州郡山面東水里
川勝農場

全北黃登
臨益水利組合

全州公立師範學校
職員一同

忠州煙草耕作組合
職員一同 電話二七番

京城專賣支局
忠州出張所 電話八番

忠清北道
忠州郡廳 電話六五番

大田電氣株式會社
忠州支店

全州自動車部

參禮昭和會
安池磯市河坪
龍內島村合井
與謙宅鶴次
參賀吉三不二郎

全州本町
御旅館
銀杏屋 電話一〇一番

全州大正町
酒商
加瀬雄三 電話一〇五番

全州
根本光次

裡里三十日會

全羅北道金融組合聯合會
各金融組合

南朝鮮鐵道株式會社
社長 根津嘉一郎
專務 別府丑太郎

全羅南道金融組合々員
全羅南道各金融組合
全羅南道各產業組合
全羅南道各海苔漁業組合
全羅南道畜產組合聯合會

松田牧場にて（昭和五年十一月三日撮影）
綿羊五百四十頭、山羊二十頭、放牧地三百町歩、昭和六年五月末日までに三百五十頭の仔羊を生産する見込

朝鮮の羊（一）

殖産局農務課　吉田雄次郎

家畜の中で羊の飼養は最も古いもので眞に有史以前の太古から人間に飼養せられてをつたもの丶如く

實に キリスト降誕前およそ一、六〇〇年の昔であつて、今を去ること三、五〇〇余年かの有名なる歴西の記録にはユダヤ民族の宗祖アブラハムが牧羊者であつた事が後世に傳へられてゐるのであるかくの如く羊は吾々人世と最も古い關係があつたにも拘らず

吾々 日本人は余りに親みがないのみならず最近は年々非常に羊のために厄介をかけて居る事すら知らない人があるといふに至つては、國産奬勵とか輸入貿易防止とかいふ立場からいふても羊に對して申し譯がない様な氣がしてならないのである。勿論羊は支那には古くからをつたが朝鮮にも内地にもをらなかつた。朝鮮では支那より數次羊を入れたことが記録にあるけれど分明ではない又王室においては祭祀用にこれを飼養した事實もあるが、産業的に

飼養 されたのではなかつた。實際眞面目に奬勵されたのは大正時代の最近の事であると今更いふまでもない事である。内地に於ても嵯峨、孝謙、推古、欽明時代から文化、安政の代に輸入された記録はあるが、實際實用的に奬勵されたのは維新以後である。然るに今日吾々の着る洋服は羊が生産する毛であつてその需要は日本の文化と共に年々増加し、最近は原料の羊毛だけでも九千萬圓これに服地を入れると一億八千萬圓も輸入してゐる。殊に吾國は洋服ばかりではない呉服店の店頭を飾る

彼の モスリン、ネル、毛布等もまた羊毛を材料としたものであることを思へば、羊が吾々の生活に重大なる關係のある事を充分考へねばならぬ。然るに斯くの如く年々需要の増してゆく綿羊の數が内地朝鮮を通じて未だ僅々二萬頭位しか居らないといふのは誠に遺憾千萬の次第である。それでは世界中に如何程の羊がをるかといふに約六億萬頭といはれてゐる、然らば綿羊は日本の領土内に適せぬかといふにそうではない、内地でも立派な

成績 を擧げて居る、朝鮮でも咸鏡北道では大群の飼養に成功し、平安北道では農家の副業經營に成功して綿羊飼養が朝鮮の將來の經濟に對し立派に存立する證據を實際に示して居る事は幾多の事例がこれを證明して居るのである

蒙古式牧羊法で成功した松田牧羊場

咸鏡北道會寧郡の松田牧羊場主松田以平氏は永い間、支那各地で活動し、會寧に居を定めたのは、明治三十九年であつた。

當時 は對岸と間島との間に馬車運搬業を經營し相當の成績であつたが、綿羊に關しても相當の經驗があつた事は勿論である。大正八年自ら綿羊事業を經營するや、先年總督府で奬勵したり、又現在農林省が内地で成功して居る農家副業の綿羊飼養法とは全く反對の蒙古式牧羊法を採用して今日の成功を來したのである

現在 同牧羊場に飼養されて居る綿羊はメリノー種、蒙古種メリノー蒙古種々等六百頭であるが、最近までは一町歩の放牧地もなく、支那人の牧夫一人宛に百頭乃至百二、三十頭の群を追はせ、草地といはず山といはず高原といはず、何所でも御構ひなく放牧して草を喰はせ恰も外蒙古において遊牧の蒙古人が水草を追ふて群羊を放牧させてゐると同樣の方法である、從つて羊舍の如きも至極粗末なもので

降雨 のときなど雨洩れがしてならぬといふ有樣である、又飼養法とても年間放牧であるから殆んど濃厚飼料を補給しないのである。殊に降雪のとき風がない場合には積雪のため枯草が埋もれ喰ふものがないので非常に困難することもあるといふことである。繁殖法も同育上旬年十二月頃から一月末までに分娩させるのである。即ち普通は晩秋に種付して翌春三四月頃分娩させるのが順序だがこれでは母羊が營養の最も衰へた

時期 に分娩するので、その結果繁殖成績がよくないから、同牧羊場では母羊の營養が未だ衰へぬに全部分娩させ以て百%以上の蕃殖成績を擧げてゐる、如斯極端なる粗放的飼育の割合に疾病の少いのは放牧に伴ふ、羊の運動が充分であるからであらうと思ふが、この點は大に研究すべき事である。然して採算の點になると飼料費が殆んど要らない程で採毛收入が相當にある、生産牡羊と

廢羊 の肉は雄基及會寧等の軍隊に供給してゐるが、現在では牛肉以上の高値で納入されてゐる、羊毛皮は防寒用にどし〳〵賣捌され羊肥の如きも附近の農家が爭つて購入するそうであるから副收入も相當にある。三ケ年を平均して羊一頭の飼養に對する純利益が九圓二十錢以上になつてゐる。如斯同牧羊場は北鮮開發上着々成功してゐるので、最近では咸南の甲山郡にも綿羊事業を開始し、鏡城郡では東京の吉田好太郎氏が開墾事業に從事すると

同時 に解氷期を待つて二百頭の綿羊飼養を開始する計畫も出來、又山下農林部もまた殷山延太郎氏も廣大なる草生地を利用して大規模の綿羊事業を計畫中であるといふことである、松田牧羊場は最近陸軍當局の諒解を得て、會寧から一里余の山城山演習地の一部にある約三百町歩の草生地を放牧場として近ケ年間

無償 で貸與せらる丶事になつたのは國家的事業なる綿羊業の將來に好影響を與ふるものとして祝福に堪へない次第である。然し同牧羊場は今後綿羊を一千頭に増殖する計畫を樹ていよ〳〵實行に着手する事となつたが、新にひつじの年を迎ふるに當り私共の關係する、朝鮮の綿羊事業がいよ〳〵曙光を認めらる丶に至つた事を祝福して止まない。

ホームスパン製織

綿羊毛を自家で手つむぎ手織にした、ホームスパンが最近各地に流行して來たのは

趣味 と衛生を兼ねてをるからである、即ちホームスパンは寒氣と濕氣とを防いでこれを調節する點においては衛生的の織物でしかも雅致に富んだ趣味を以て居るから運動服、野外服としては最も適して居る、彼の英國貴族がアイルランド邊の小農を援助する目的の下に盛にホームスパンを着用して遂に英國の家内工業を隆盛ならしめたといふ事は吾々の記憶に新たる所である。綿羊の飼養が一般農家に普及される時だ

農家 の副業として冬閑の余剰勞力を利用し、自家に飼養した羊毛を手紡ぎ手織として、暖かく丈夫な自家用の衣服を造り、これを着るといふ事は經濟の上から見ても趣味の上から見ても甚だ好い副業であるといはねばならぬ。先般農林省の食堂で晝食の折、恰度陪席に招かれた、町田農相が畜産課長の洋服を眺めて『君のこの服は面白いね、どこで買つたかね』との事、そこで石崎課長はホームスパンである事と、本省畜産課の

斡旋 で北海道の農家で生産したものを求めた事から、ホームスパンの特徴等詳細を説明した處が、大臣余程氣に入つたものと見えて、早速見本によつて四着分の服地を注文されたそうだ、相場は一着分二十圓から二十五圓であつたがそれでも北海道や岩手あたりの生産者はホク〳〵ものだそうだ、朝鮮でも朝鮮博覽會のときに館内で平安北道の綿羊飼養者で組織ある朝鮮婦人を招きホームスパンを實演せしめ、簡單な器械で靴下、手袋、襟巻等を造らしめたが、製品はどんどん賣れて遂には

注文 に應ずることが出來なかつた程であつた、又今村内務局長が黄海道知事時代には鳳山郡馬山の岩崎農場で造つたホームスパンの洋服を平常に着て、役所服や運動服はホームスパンに限ると宣傳せられたので、農場のホームスパン鮮女工は一時四五、六十人にも達し、海州に一時ホームスパン熱で風靡したものであつたが農場は支配人の失敗から綿羊を賣し遂にホームスパンを中止するに至つたのは誠に惜いとであつた。然し平安北道では農家の家庭工業として相當の成績を擧げてもゐるし、又各地にも

綿羊 の飼養が普及さる丶機にもなつて來たから、やがてはホームスパンの流行も實現さる丶ことであらう。

古代美術の羊

朝鮮の古代美術に現はれた羊といふものは殆んど見ることが出來ない。これは古來朝鮮に羊といふものを飼養しなかつたがため、羊に對する觀察がなかつた關係であるまいか。

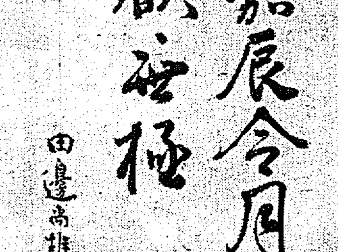
然し 慶北慶州附近西岳北方支臺中にある金庾信の墓の腰石といふのは墳墓の基面を圍つた石といふので墓の守護と裝飾のために据へつけたものだといふとである、高句麗時代には石床の内に朱雀、玄武、青龍、白虎の四神を彫刻若くは描いたものであるが、新羅時代には夫が十二獸の神將と代つた、十二獸とは十二支のとでこの十二支は皆鎧を着て武器を執つて神將たるとを象徴して居る、四神を

使用 した高句麗の遺風は高麗時代にまでおよび往々小石槨の中などから、是を見出すこともあるが十二獸を墓所の守護神にした事は新羅以前にはなかつた多分唐の習俗を輸入したのであらうといはれてゐる、その後高麗朝時代になつてこの十二獸の配列が非常に簡化し、子、丑、寅、午、未位に略され、李朝におよんで更にこれを減少し僅に子、午、未の三獸だけとなつたが、その位置は新羅時代より高麗時代にかけては墓の周圍に配置され

李朝 に至つては唯墓前に配置さる丶に過ぎない樣になつたのである、さて金庾信は人も知る文武王を扶けて三國統一の大業を完うせしめた新羅の大功臣で、墓の樣式は高麗朝のものに似て高丘を選び土饅頭の高さは約二間、徑約八間ばかりである、腰石は十二枚の花崗石で一枚の大きさは先づ幅二尺五寸、縦が四尺位その表面に一樣に十二支が彫刻してあるのだが刀法は甚だ巧到で且神雅の風がある、しかも十二が十二ともそれぞれ獨特の

性情 を發揮してゐて面白く美術上から見ても極めて珍重なものであるが其の未の神將はさすが柔和の相貌を現はし、要と美の象徴として遺憾なく朝鮮における古代美術の羊を見ることが出來る、また恭愍王陵の前に据つてある石羊は長さ四尺五寸、高さ二尺位のものであるが、之も高麗の末期李朝のはじめの頃といふ過渡時代の産物であるが刀法は極めてデリケートで可なり柔か味もあるがそれだけにまた少し力の足りない憾みもある、けれども

其頃 の美術としては立派なもので金や銀の腰石の羊神と相まつて、朝鮮古代の美術に現はれたると羊して珍重するに足るものであらうと思ふ。



『嘉辰令月歡無極』　音樂家　田邊尚雄氏筆

スポーツの合理的振興策
半島現下の情勢に鑑み速に體育審議會を設け討議せよ

京城高工　中馬越之助

半島體育界も逐年進歩の狀況に向ひつ丶あるは誠に慶賀の至に堪へぬ所である。然しながら顧へつてかへりみるに時は未だ遺憾の點が甚だすくなくないと思ふ。即ち科學的研究を基礎とする合理的指導に關し缺くる所あるは遺憾に堪へない、一例を擧ぐれば體育行政機關の如き、すでに中央政府としては先年國民體育の所管を文部省とさだめらる丶や、大臣官房の一角にすでに體育課を設け、各府縣地方廳においても學務部に專任的體育運動主事を置き、學校衛生技師と共に國民體育の全般に亘つて適切なる指導獎勵をなし、これが統制を圖りつ丶あるのみならず、體育運動團體の關係においても、獨逸における最高の統制機關たる全獨逸體育委員會にならひ、府縣單位の體育團體を全國的綜合體育團體競技各種目別全國的體育團體と互に連繫を保ち、大いにこれが振興を圖りつ丶あるに反し、吾朝鮮においては未だこれ等に關し何等の施設たきのみならず、當分實現のプロバビリテーも見出すを得ざるは痛嘆の至に堪へない。又朝鮮體育協會の如きも、單に神宮競技大會を通じて豫選をなし得るのみで、道や府郡單位の體育團體に對し何等の統制なく、いはゞ支離滅裂體相互のコオペレーシヨンを缺くこと甚だしきは、半島體育の振興上甚だ遺憾なことゝいはねばならぬ

◇

又現に文部省においては昭和五年度の追加豫算において、極東大會に對し補助金を計上交附したる外、全國體に地方的の體育運動團體に對しこれを助成する目的を以て體育奬勵費を計上して特別會計の經費を組、すでにこれを下附したほ直轄學校の如きも豫算中に特に體育施設費を設定して、體育に關する經費を公認したるも、吾朝鮮においては所管をことにし、財政を別にする關係上、その恩典に浴せざるは實に不幸たとといはねばならぬ

◇

その他學校青年團體における體育運動は勿論、民衆體育に關する事項や、女子體育に關する研究等も、文部省においては今春來體育審議會を設け、振興方策に關して既に成案を得、着々として實施せられつ丶あるに拘らず、半島においてはこれ等の問題も未だ等閑に附せられてゐるのは、體育上甚だ殘念なとといはねばならぬ

◇

故に私は朝鮮における體育運動の振興と精神作興並思想善導のため現下の實情に鑑み是非體育審議會を設け、左に示す諸大方針の下にこれが合理的振興を講じ、一日も早く根本的方策を確立せられんことを希望するものである。然らざれば半島體育は唯内地に追隨して常に孫臨を保ち、百年河清を待つの悔いあるを免がること能はざるが爲めである

一、國民教育の惰性たり缺陷たる智育偏重の弊を襲て體育の普及發達を圖ること

二、科學的研究を基礎とする體育の合理的指導を一層十分にし運動精神の涵養に留意すること

三、體育運動の意義及効果に關し一般にこれを理解增進しめ正當なる體育思想の普及を圖ること

四、女子の健康を增進し且次代國民の體格を優良ならしむる爲特に女子體育の振興を圖ること

五、體育運動の實行に關し陷り易き弊害を防ぎその效果を一層顯著ならしむること

◇

然るときはこれが振興策たる左の要項の如きも自然に解決することと思ふ

一、體育行政機關の整備に關する事項

二、體育運動團體統制に關する體系

三、大學豫科及專門學校並中等學校體育に關する件

四、青年團體の體育運動並民衆體育の奬勵に關する事項

五、女子體育運動に關する事項

六、運動競技會及運動選手に關し改善すべき件

七、運動場其他の設備に關する事項

八、體育運動施設に關するテスト其他に關する事項

九、體育思想に關する事項

一〇、朝鮮神宮競技に關する件等

◇

これが爲には學務局長の諮問機關として、是非體育運動審議會を設け、局長自ら會長となり、委員としては總督府における社會教育課長及學務局關係官は勿論、まづ京城における專門學校男女中等學校長中の代表者、體育協會長及各種體育團體の代表者等を網羅しその中より特別委員及常任幹事等をもうけ、會長の諮問事項たる『朝鮮における現下の情勢に鑑み體育運動の合理的振興方策如何』との問題に關し、愼重に審議して忌憚なき意見を求め、研究討議して答申案を作成し、これにより半島體育の根本策を樹立し、指導獎勵に貢獻すると共に、光輝ある效果を收められんことを、熱望して止まないものである

水仙　山村耕花畫伯筆

陸軍始觀兵式　八日龍山で

龍山衛戍部隊の陸軍始觀兵式は軍參謀長兼次中將諸兵指揮の下に、八日午前十一時から龍山練兵場で施行される。參加部隊は步兵第七十八聯隊、步兵第四十旅團（步兵第八十聯隊欠）朝鮮步兵隊、騎兵第廿八聯隊及び工兵第二十大隊で式は閲兵を以てはじまり、次いで分列が行はれる。軍部では一般參觀を歡迎してゐるが、一般參觀人席には練兵場西側高地と北側高地を以て充てられると

一口噺（本社編輯局選）

題『軍　縮』

京城　丈　平

甲『軍縮で軍艦を制限したら今度は無暗と飛行機が殖へる空からシヤ〳〵やるからお百姓さんは肥料が入らなくなる』

乙『成程さうかその見越しで米價の暴落か』

八公『軍縮づて一體何の事だい』

熊公『あれは恐さの事さ、この間も内閣にひびが入りかけたといふから……』

平壤　齋藤　榮須

軍人『困つたものだ』　くびを考へてゐる

軍人の妻『之でほつと安心した』　戰死を考へてゐる

京城　田中　資一

一將校新聞の軍縮會議の記事を讀み『戰鬪艦の七割が取れんとは殘念だ』と悲憤の涙にくれて居ると之れを見た一勞働者『成る程軍縮とはよく言つたらあー軍人をシク〳〵泣かせるから軍シクとは』

京城　調　定　賀

甲『おい軍縮もよいが七で十に勝つ自信はあるかネ』

乙『あるとも〳〵八十の老人と二十のおれと角力取らして見なさへ』

賀正

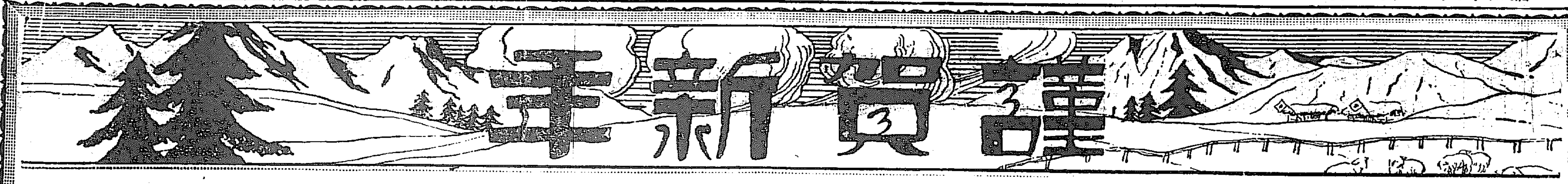
咸南新興郡新興面長　小野致明
咸南豊山邑内　御料理　一山館
咸南豊山邑内　御料理　花月樓　主　李孝錫
咸南豊山邑内　千鎰商店
咸南豊山邑内　貿易商　白盛商店　主　金衡殷
咸南豊山邑内　御綢緞布　度量衡器　教科書各種　安興商店　洪淳默
咸南豊山邑内　御料理　飛行氣亭
咸南豊山邑内　御旅館　豊山館
咸南三水公立普通學校長　西山義光
咸南三水郵便局長　鳥山英雄
咸南新興郡公立尋常小學校長　清水洪作
咸南三水郡江鎭面長　姜英模
咸南新興郡公立普通學校長　野上楢久
咸南甲山郡　普惠面事務所　職員一同
咸南端川邑内　南大水利組合
咸南端川邑内　金國輔
咸南端川邑内　醫師　朴永熙　永生醫院
咸南端川邑内　湯目亥五郎
朝鮮殖産銀行北青支店長　安藤榮貳

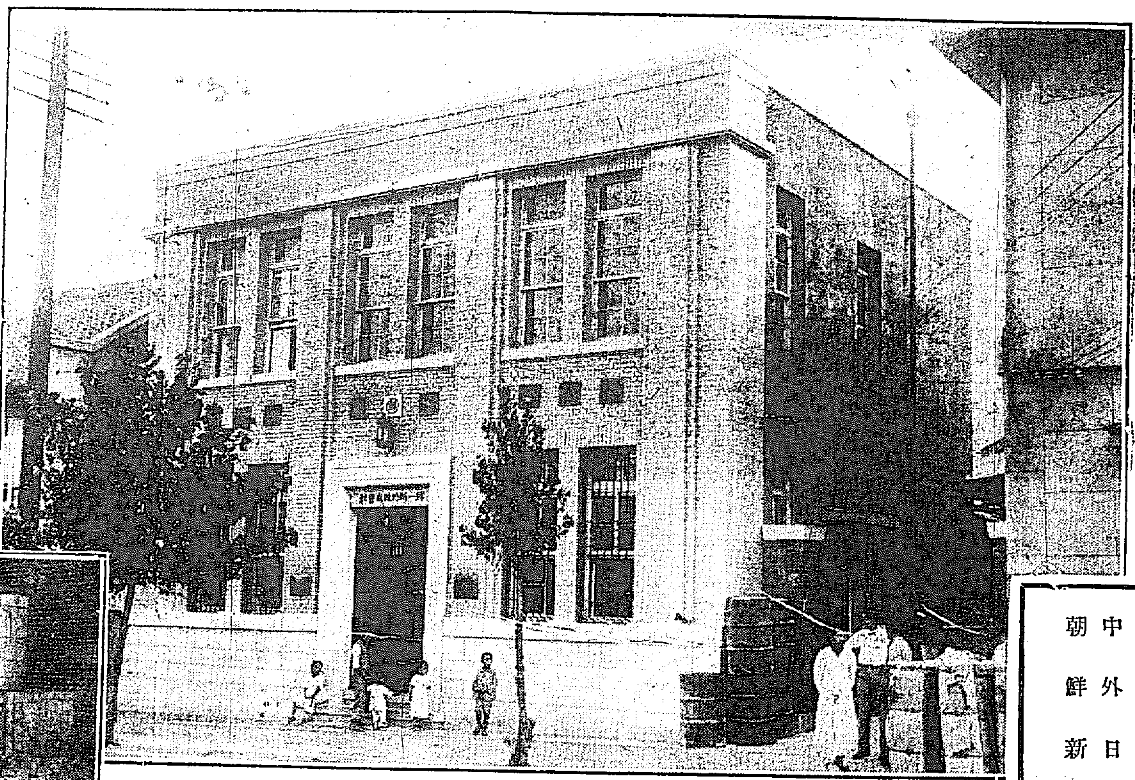
咸南豊山邑内　趙致夏
咸南北青郡　新昌面事務所　職員一同
咸南北青郡新昌里　公医　李亨垣
咸南新昌公立尋常小學校長　田原琢磨
咸興府軍營通　米穀商　益川政太　電話三五四番
咸興府軍營通　昭和堂藥房　電話六四六番
咸南甲山邑内　金烋矩
咸南甲山郡　長平面事務所　職員一同
咸興府協議會員　金山福太郎
會長　玉置省二　副會長　篠崎新　評議員　井上通　飯田重德　林良作　大川市二　渡邊利一　梶田喜代八　吉町石太郎　高倉榮太郎　丹野仁平　土谷惟一　中村正一　中原正作　中島信太郎　中尾高義　永島一充　野尻德治　九貫政二　倉掛喜丈　松村榮三郎　淵野菊市　三木鐵治　信田秦一郎　森田秦祐
咸興府本町二丁目　鈴木愛民堂藥店　電話二一七番
咸南豊山邑内　新豊釀酒所
端川公立小學校　端川公立普通學校　端川公立農業補習學校
咸鏡南道評議會員　沈亨燮　咸南端川邑内
咸南甲山郵便所長　岡田彰
北青林友會

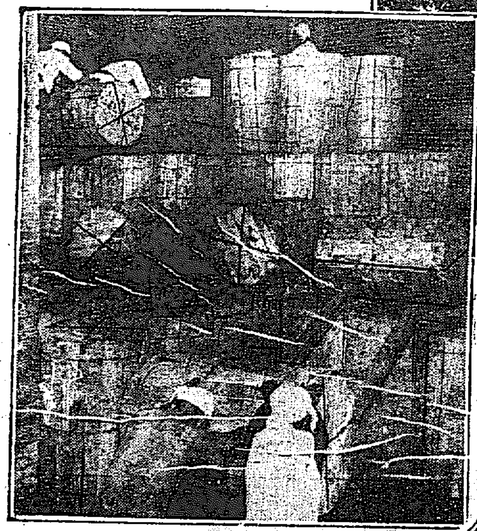
咸興學校組合議員　中原正作
咸興學校組合議員　九貫政二
咸興學校組合議員　森田秦祐
咸興學校組合議員　中村源一
咸興學校組合議員　池田金治郎
咸興府協議會員　倉掛喜丈
咸興府協議會員　大川市二
咸興府協議會員　咸興學校組合議員　高倉榮太郎
咸興府大和町三丁目　大和食堂　電話八二四番
咸興府軍營通　淵野食料品店　電話四四六番
咸興府軍營通　食料雜貨　ツルヤ商店　電話三四九番
咸興辯護士會
咸興府本町二丁目　松竹キネ北鮮封切場　高級常設　眞砂館　長電話三六八番
咸興府軍營通　右田電機商會　電話三二三番
咸興府本町一丁目　櫻井善三郎　電話七二九番
咸興府軍營通　株式會社　旭印刷所　長電話二一六番
咸興府軍營通　洋品雜貨　洋服　明治屋　電話五六五番
咸興府大和町三丁目　株式會社　北鮮倉庫運送部　長電話三三五番
咸興府大和町三丁目　貿易商　金錫炫　長電話七一三番
咸興府大和町二丁目　佐田建築所　長電話一〇一番
咸興府軍營通　文具　雜貨　文勝堂　電話五六四番
咸興府本町二丁目　中村時計舗　長電話二一五番
咸興府軍營通　文具　書籍　文化堂　永島充商店　長電話一九八番
咸興府盤龍台下　食料雜貨　古橋商會　電話四〇番
咸興府　朝鮮相互保險　奉仕會本部　長電話九二八番
咸興府　公認　咸興自動車實習所　所長　一木久夫

龍山　南券番
龍山彌生町　松葉　廣野新吉　電話龍山一〇番
京城府岡崎町九二　日鮮興業社　洋服部　電話龍山八七〇番
藤田安之進
京城府漢江通　廣瀨齒科醫院　電話龍山九九六番
吐月
龍山練兵町公設市場　組合一同
銘酒　漢陽鶴　醸造販賣　畠山酒造場　京城府元町一丁目　電話龍山一五四番
京城府岡崎町七〇番地　平井商店　平井九一郎　電話龍山一六七番
龍山三角地　京屋京染呉服店　電話龍山七五二番
明治町二　茶舗　宇治屋　電話本局四一二番

京城府本町四丁目　京城ラヂオ商會　電話本局四二四六番
京城府古市町五七　畑詮之助　電話本局七四六番
金剛酒類品評會優等賞受領　高級清酒　天佑　石原酒造場醸　發賣元　灘屋酒店　京城府旭町三丁目　電話二八・八〇三
京城府北米倉町　梶原商店　電話本局二六七〇番
純朝鮮式建物二百余坪　鮮洋式樓上一棟二百坪　食道園　京城南大門通一丁目一六　電話光化門局一五四七番
朝鮮料理界元老　明月館　京城府敦義洞一四五番地　電話光六四・八六二・一五〇九
明月館支店　京城府瑞麟洞一三七番地　電話光七二五・一七七八番
全士屯勅物品　諸官衙陸軍御用達　鮮滿委員副業奬勵會　京城勅物倶樂部　代表者　裵潤寛　京城吉野町一ノ一〇二　長電話本局四一五五番　振替京城一二〇九番
京城府太平通二丁目　日清生命保險會社　滿鮮支社　電話本局一四九六番
京城府旭町二丁目四八　岸の寮　電話本局九四番
京城水産株式會社
榊谷組出張所
京城自動車販賣協會
京城府本町二丁目　江戸自慢天ぷら　和洋料理　本ビル食堂　電本二三〇四番




本社營業所


新聞卷取紙倉庫ノ一部

市內主ナル新聞卷取紙納入先

京城日報社殿
每日申報社殿
セウル・プレス社殿
朝鮮日報社殿
京城日日新聞社殿
東亞日報社殿
中外日報社殿
朝鮮新聞社殿

京城府壽松洞二六番地
電話光化門 長一〇二〇番 長一九九八番 六九〇番
振替京城八〇四九番
私書函光化門局第二八號
受信略號ケイゼウセン一カミ
發信略號（セン）又ハ（선）

社長 朴興植

營業科目

新聞卷取紙一手販賣
(鮮)改良朝鮮紙販賣元
和洋諸紙輸入卸商
各種白露紙、天井紙卸商
紙加工品及印刷原料卸商

雪裏吐香

穴田硯山畫伯筆

東西エログロ狂騷曲

◇……安藝禮太郎

『袁世凱』と紅星玉

『袁世凱』つてみんなから呼ばれてゐたその男。それは上海で褒商東會社の社長さんに月ぎめで雇はれてゐた支那人の抱へ車夫、黄さんのあだ名なんである。で彼がいやしくも、袁世凱ほどの高名に多少ともあやかるに就いては、何か正當の理由がなければならぬ筈それはある、大にあるのだ。

黄さんは、江蘇省内蘇州の片田舍、寒山寺に近い農家の生れ。六尺豐かの屈强な男で、彼の容貌が不思議にも一世の雄袁世凱とは、血を分けた親子か、兄弟ほどに酷似してゐたのである。だがそれだけが『袁世凱』のよつて來る謂ではない。

この男奇妙にも袁世凱の肖像入りの一元銀貨に、愛着的執着を感じてゐたらしい。といふのは、社長から渡される毎月の手當でも、さては時偶社員を乘せて、コッソリ貰ふチップでも、それを手にするや否や、最寄の錢莊（兩替屋）に駈け込んで、若干の『袁世凱』と交換しなければ、承知しなかつたからである。

尤も、黄さんにして見ると、なにも袁世凱の肖像に、有難味を感じたワケではなく、ペラ／＼した紙幣などよりは、銀色の輝きと、ヅッしりした重さに、より多く通貨としての價値を見出したにあるらしい。更に角彼はそれらの『袁世凱』を、自分の性格ほど頑丈な木箱の中に、丹念にため込んだものである。これ恐らく『袁世凱』の名ある所以。

三國史の英雄じみた黄さんは、柄にもなく從順で、かつ正直ものであつたところから、彼を知る誰からも可愛がられた。が、社長さんは取分け、彼に目をかけた。それは兎角物騷な事件の起りがちなその混沌したコスモポリタン市にあつて、彼の如き偉丈夫は、用心棒としても、十分の資格を具へてゐたからであらう。

こゝに一つのステキに粹なエピソード。といふのはこの社長さんが、福州路の一角を横へ折れた細露路の、とある支那建の家を、一週に二三回は必ず訪れたといふ事實。そこは、日本人の間にも評判をとつた美妓、紅星玉の家だつたのである。お供はいつも、車夫にして、かつ用心棒を兼ねた黄さんであつたこと勿論。

彼の女の、玉のやうに滑かな膚、星のやうに輝く眼、そして花蕊のやうな鮮紅の唇は、豚のやうに肥つた、四十男の、好色社長を吸ひ寄せるに、とてもお誂へ向に出來てゐた。

紅星玉身請けの話がおこつたのは、その後、二三年も經つてからのこと。そして相手は無論、彼の女に熱烈な愛慾を感じてゐるデブ社長。だが、だが、際どいところで貰ひ投げを喰つた社長さんの面目玉が、丸潰れになつたではないか。

ほんとうに、彼の女には、夢寐の間にも忘れ得ぬ好い人があつたのである。しかもそれが同じく蘇州生れの――上海の諺言には、蘇州美人が多い――商井商、振りわけ髮の頃の馴染といふ、テンデお安くない仲なんである。

皆さん、もうお察しがついたでせう。その彼の女が二世を契つた男といふのは、社長をだいぢに護つて、夜な夜な、紅星玉のもとに送り込んだ、愛すべき好漢、『袁世凱』君だつたのである。

社長から暇をとつた黄さんが、艶かな新婦の手をとつて、郷里の蘇州在に、いそ／＼と歸つて行つたのは、それから間もないこと。銀貨の『袁世凱』を、ギッシリ詰め込んだ木箱を、輕々と肩にして紅星玉を引具した黄さんの、その颯爽たる凱旋將軍の風姿は、想像するに難くあるまい。

『笑門多幸笑語招福』　生方敏郎

エロの治外法權

倫敦のハイドパーク。それはロンドンの世界的に、有名なランデブーの場所なんである。その眞中にあるサーペンタインの池。

昨年の夏から、女も男も、自由に、その中で泳いでもよいことになつたが、それも勞働内閣のお蔭だなんて、モボ、モガ連から、矢鱈に、エロ神さまに祀り上げられたマック首相は、定めし微苦笑を禁じ得ぬであらう。

だが、夜になつたら、更にステキだ。廣い公園の森の茂み、さては叢むらの中ベンチの上に、花を訪ふ蝶蜂のやうな甘い囁きのシンフオニーが、開かれるんだから。

夜のハイドパークに、野獸しの隱れ家をもとむるものは、安いサラリー・メン、晝間働いて生活費を稼ぐ女中さん、汗臭い勞働者といつた連中が主である。ロンドン・プロの性的生活には、缺くべからざるスヰート・ホーム。まことにエロの治外法權地帶で、ハイドパークはある。

尤も嘗て、この問題を議會に持出して、ランデブー取締りの必要を、政府當局に迫つたオセッカイな道學議員もないではなかつたが併しその時

『若し殿下が紳士ならば、他人のさうした場合に注意さるゝことを、御遠慮あつて然るべきだと思ふ。』

と、いつた具合に、眞向から一本きめつけられ、他愛もなく降參して引下つた例もある。この邊、日本人なども、時に學んで然るべき、大國民の紳士道ではあるまいか。

なんて、有頂天になつて、この邊をウロつきまはつてゐた爲め、首とかけ替への、だいじの文書を紛失した、某外國外交官の例もあることだから、蓋しその邊の禁神修養は最も肝要。

『股下二寸』の悲哀

世界を吹き捲くる不景氣の中にこれはまた奇蹟的に咲きほこるエロ・レヴュー。『股下二寸未滿を禁ず』といふ、踊り子のヅローズ取締令が出た日の本は、岩戸神樂の昔より、そのそれであることも、萬國共通の事實であるんだから、官憲よ、矢鱈に腰をたゝいてはいけない。

今は昔、ギリシャの黄金時代にあつて、アテネの貴族たちは、近代人がカヂノへ出かけると同じやうに『笛吹き女』と稱する美女の一隊を雇つたものださうな。奏樂が高調に達し、酒がまはるにつれて、舞姫はいよ／＼艶美となり、若い貴族たちは、氣も狂はんばかりに興奮して、貴重な指環や、身につけた貴重品を、ダンサーめがけて投げつけたといふ。

やがて踊り狂ふまゝに、女たちはヴエールや衣裳をかなぐり捨てて豐滿な肉體を露出して、旺んに『イット』を發揮するので、貴族たちは、興奮にもゆるのあまり、時と場とを忘れて、それら笛吹き女たちに……そして女たちも自分らの搔きおこした歡樂の渦巻を誇りとするといつた風習もあつたとのこと。その頃のエロは、今日のそれよりも、遙に尖端的であつたことが想像されるのである。

といつたところで、敢てエロ、グロ尖端主義の宣傳をやるものと誤解されては困る。エロの流行も世界的なら、官憲がその取締りに腐心するのも世界的なんだから。

たとへば、最近、エロとグロ、ジャズとレヴューの本場、ニューヨークにおいてすら、カロル・レヴュー團の裸か踊りが問題となつて、一座殘らず檢擧された事實もある。カロル一座にして見ると、エロ的感激に浸らずには、生きた氣持がしないといふ危險極まる近代人の要求にアッピールすべく、最善の努力を試みたに過ぎないワケなんだが、無粹な官憲は、さうした心意氣をサッパリ理解してくれなかつたのである。

一夜、座中の花形フエース・ベーコン嬢をはじめ、艶かな連中が白蠟のやうな肉體に一糸も纏はず單に駝鳥の羽の扇を巧にあしらつて、幽婉微妙のダンスを舞つてゐる舞臺の上へ、豫て張込んでゐた怖い小父さん達が、一齊に踏込んで御用。

されば日本の近代人よ、今後、『股下二寸』を三寸に引伸ばせとの、きついお布令が出たにしたところで、エロの深さが、ヅロースの長さに反比例する事實を、あまりに多く痛嘆くにはあたらぬであらう。およそ世界の近代人といふ近代人は、みんな共通したエロの受難者なんだから。

『おまへは春の兒さん梅の小枝で呼びかける』　野口雨情

新年文藝

詩壇（完）

題『隨意』　佐藤淸先生選

佳作

花　杉本正雄

私が歩い行く道に花が咲くだらう
蒼白い淋しい花や赤い花が――
私は私の道を忠實に歩く……
其の間も私の本當の心を表現する花が
私の道の傍に咲きつゞけるだらう
私は私の道に私の姿をうつすいろとり／＼の花を咲かせよう
さうして老いてその花を
私の道を思ひ出に刈り集めよう
そして歩いて來た私をながめよう
今迄さいたのは蒼白い花……
あゝこれからどんな花が咲くだらう
私は私の道を僞りなく歩みつゞけよう
さうして私の花を咲かせよう

鉛色の空の重壓　砥上榮次郎

鉛色の空の重壓に堪へかねた十二月の街
憂鬱のある部屋で、百三十時間十五分煙突の上にあつた男をわらふ彼達――
マンハッタン混酒、紅茶と角砂糖が二つ
彼女の磁水鉛は、パリパリと林檎を噛み破る
蜜柑袋の戀を吐き棄てる
接吻――赤い林檎の皮
手袋にかくれた指輪にさよならをして、外套の襟を立てゝ歸る彼達――
お、街路樹は、百貨店の大窓掛しに萬引の嫌疑を受けた
だから裸で慄へてゐるよ
慄へてる、泣いてる、並木の上に銀貨の月が……

凝視　淸澄光

透明なガラスを隔てゝ
や、歪んだ長い面輪に
先刻から眸をこらしてゐるのだつた
白壁に身を凭たせて
息をひそめて
じつと一つの焦點にみいるのだつた
キラ／＼と光を反射する窓の奥で彼女の全神經を集中してゐる
一つの備が仄かに笑つて
かすかに面をもたげた
さつと身を引いて
窓の外の人影は
さとられたいやうに注意をゆるめなかつた
二度三度窓外の顏はひそかにのびた
氣付かれることを怖れ乍ら
やきつくやうな視線はガラス■透した
いくとき經つたらう
はつと物に憑かれたやうに
立去つてゆく忍びやかな足音が聞いてきた

沈む夕陽と雲　砥上ゆき

白い雲の花に、しきりに接吻する
靜かなる夢風
はりつめた防風林の松ふぐりは砂原に泣きほぐろを迎く
もの靜かな水平線に
この太陽は窓外の化粧をする
パラシュート！パラシュート！
白い雲のパラシュートを翳して化粧した太陽は
しづしづと落ちて行く、海の彼方に
S・O・Sの信號を氣にしながら
處女航海についた汽船の甲板にふはりふはりと落ちて行く

壺　淸武はじめ

二千年の間土に埋れて
永い夢を見てゐたこの壺
その頃……
なだらかな山をおうた丘に
葬れることを知らない
暖かい日ざしの下で
のどかな唄に合はせて作り出された
態度か確く白いお前の肌に
その頃生きてゐた人が
水をくんでは霧を吹いた
さうして木のへらで
丹念にかき取られて
作り上げられた
その頃……
虫の音はこんなに
哀しい聲で鳴かなかつたらう
夕日もあんなに
慌しくは落ちなかつたらう
二千年前の世はすべて
お前の姿の様に
のどかだつたに違ひない

地上の中心を感じて　村上きよ詩

何といふ蒼明な空だらう
名匠の靑磁の瓶にもたとへようか
すつきりと落ち付いたその感觸
そこから朝の聖い思想がしんしんと流れ落ちてゐる
私の踏んでゐる尺餘の土はかほり
私の踏ふてゐる尨大な氣體はかぐやき
私の血潮は身内を順調に流れる時
私は全く地上の中心――
四圍の萬象は私の視野の中に整頓され
私の靜かな呼吸の中に生々と色彩を增すような
お、何といふ蒼明な朝だらう
あの淸雅な門扉に立ちて
さんさんと黎明の矢を射るものよ
私は心の的を高くお前のために掲げよう
そして反撥し反撥する金屬性の微妙なひゞきに
この快適なしばしの時間を消して悔いまい
お、朗らかな朝なれば……

冬來りなば　谷桑吉

―お母ちやん梅が咲いてるよ！
―まあ！まあ！それはよかつたね。
子供はあんよが出來る程になつた
母親はミシンを踏み止めて、小供の赤く腫れた霜燒の手を溫めてやらうとする。
小供はジヤケツを脱ぎたいと泣き出す。
ホントニにね。
お、春は頭の庭垣まで來てるんだね。

失業　松本國雄

林のやうにつゝ立つた煙突
煙突の下に俺は喘ぎながら
貝殼の赤い太陽を見る。
部會では輝きを失つた球が
天球上の軌道を動く。
陽溜から拾ひあげた油のしみたハンチングに
重たいほどの煤煙を被つてのホコリッポイ椅子に腰掛けるこゝで初めてホッと息をつく。
こゝにけおいらの仲間が學生の食ひ殘した犬のなめづてゐるバナナをじつと見てゐる
背もじやな若い顏をものだるく打伏せてゐる・
新婚者が尻に敷いたしわくちやな新聞の案内欄を溢血した眼で見てゐる。
俺は乞食と失業者の區別ができぬ。
俺のシヤツにも虱がわいてゐるのだ。
こゝに集つた人間の中に金線の紳士に挑戰し得るものはゐないか。
太陽は燈つてばかりはゐない筈だ。
お、おそひかゝつてくる明日のパン
じつと腰掛けてばかりはゐられぬ。
疲れと汗でくしやくしやになつた足を見つゝて
俺は白い紙の貼られた工場町の裏通りを放浪する。

春の風　田中みさを

春の風は見てゐると
見えさうな氣がするでも
頰を撫でるものは
ちゝ色のやさしい春の風
靑い麥畑を狹んで、黄昏の道に
戀をだきしめて歩く私の胸はいたい
あゝ日傘をくるくると廻して通るものがある
花、ヒバリ、かげろう
くさもへの匂ふ原と、やわらかなひざし
春の風が通る

待春賦　澄上映二

水溜に滴り落つる雪融の音は
夜もすがら續いた
ちろん、ちろんと
すゝり泣き
しのび泣き
雪女のうなじは微かに慄へて居たがつひに崩れ伏した
蒼白い月は、默つて見てゐる
アンテナは北の方にひよろひよろと跳いた、ふきなびいた。

太陽の黑點　櫻庭秀郎

地球の半面は眞黑いかげで
寒暖計はおしつぶさ頭が上てれらたい
吹雪の夜を鍛釣船は、羅針盤をいためて、黑い港につく
そこには飢ゑた女がふるへてる
ウオッカを下さいと訴へる。
―ラッコの毛皮と砂金とを持つてた女だつたに……。
ね！　春を買つて頂戴！
ね！　夜の華を買つて下さい
と、その女は言ふ
何が？何が？さうさせたか
鉛色にどろんとした目の太陽から、のどかな春の價喪燭は來たい
さうです―まだほど遠く北國の灯が見ゆる

新年の詩篇

佐藤淸

新年の詩壇は、去年に比べると、ずつと粒がそろつてゐた。殊に最近の『京日詩壇』に群を拔いてゐる川端周三君の作はよかつた。淡雅なリアリズムの中に、强い主觀をとけこましてゐる詩風は『京日詩壇』人多しといへども、全くこの人の右に出づるものはないと言つてよからう。この二ケ年間に、河野京湖、寺本喜一、船崎榮太郎、杉本長夫、松澤茂、藤森滴等、朝鮮詩壇の諸星が一度根出してしまつたあとなので、朝鮮には、もう新しい人はないかと思はれてゐた時、川端周三君の出現は大いに我々の心を强くする。岩城歷世君の作もよいものがある。その他の人々については言ふべきことがない。

鳥致院　精米穀物肥料商　高谷與助商店　電話一二番

鳥致院　朝永土地株式會社　電話一二五番

鳥致院　朝鮮物産株式會社　電話一二八番　振替京城八四七五番

鳥致院　忠南燕岐種苗組合

鳥致院驛前　運送店　電話三二番

燕岐郡農會
燕岐郡畜産組合
燕岐郡森林組合
燕岐郡朝鮮酒造組合

鳥致院麴子製造組合

全南光州　土木建築請負業　由田策　電話一六四番

忠北永同　重松酒釀場　電話三〇番　振京九一〇九番

朝鮮運送株式會社　鳥致院出張所　電話長二五番　電話五八番

賀正

忠北永同　大興電氣會社　永同支店

忠北永同　御料理　大阪屋　梅若　琴　千　香代治

鳥致院　忠淸南道評議員　朴之赫

淺野セメント特約代理店　建築用材木及内地米　材各種　石材　左官材料　竹　石灰
益田材木店　鳥致院驛前　電話一〇番
益田支店　淸州大黑町　電話二二〇番

鳥致院　南北棉業株式會社　繰棉工場　電話一二九番

土木建築　建具指物請負業　村上延太郎　湖南線江景南町

南北棉業株式會社　永同繰棉工場

水原驛前通り　吉浦英信　巴商會洋服店　電話一四三番　振替京城三八九〇番

朝鮮水原驛前　水原荷主運送株式會社　電話二二九番　二〇八番

朝鮮水原驛前　水原農事試驗場　鐵道局指定　山本旅館　主　桝しげ　電話二八番

朝鮮水原驛前　穀物商　廣成商會

水原面長　梅原靜雄

水原消防組頭　忽那龜千代

水原郵便局長　古田信秀

共濟無盡株式會社　水原出張所　電話三〇五番

水原醫師會

龍仁郡陽智　京畿道評議會員　李潤永

龍仁郡々守　方漢復

龍仁警察署長　二階堂昇

大田邑　山林種苗組合

大田春日町三　大田煉瓦工場　安井金之助　安井鑑一

大田　辯護士　中島潔

大田　料理　富士家

大田　料理　荒川

大田　貸座敷業組合

大田警察署

大田春日町　北村寫眞館　北村三藏　電話三一八番

大田刑務所長　菱田長平

大田驛前　洋食喫茶　自由軒　電話四一四番

大田春日町　福田吳服店　電話一六二番

大田　鮮南倉庫株式會社　電話二四八番

大田本町　米穀貿易　若林茂商店　長電話四六番

大田本町一　石光齒科醫院　電話一二二番

大田　ますや酒店

江原道春川邑　各種印刷和洋紙販賣官衙御用達　江原印刷合資會社　電話一七〇番　振替京城六〇一九番　（前每申江原支局印刷部）

江原道廳

鮮大邱　徐丙朝

慶南晉州本町　稗田良之助

晉州郵便局職員一同

晉州警察署職員一同

晉州郡守　宮川長介

慶南道立晉州醫院

慶南晉州公立學校長

晉州刑務支所職員一同

晉州　竹本組

山淸郡守　金基俊

晉州面長　桂登利藏

慶南陜川郡西川　慶南道評議員　崔演國

慶南道評議員　北川戌三郎
晉州學議員　間嶋佐七郎
晉州學議員　眞嶋晉吉
慶南道評議員　李章喜
晉州面協議員　原田吉藏
晉州金融組合長　鄭臺範

慶南晉州郡晉州面　淸水佐太郎

晉州實業春秋會

開城府協議員　金慶培

李熙英　電三〇九番

內外物産株式會社　支配人　全和　電一七五番

開城府協議員　石原博太　電四二三番

開城府協議員　宮崎金藏　電二十番

開城府協議員　孔聖求

御料理　瓢　電四二・二五番

夜明券番　電一二二番

海州　開城　白川　延白自動車　開城支部　電三八番

開城自動車部　電一四六番

高麗自動車部　電一四九番

開城府學校費評議員　孔聖學

松都殖産株式會社　電話一七七番

開城商事株式會社　電話二二七番

世界羊物語

ブラジルのお話　セルヴィアのお話

皆さん！今年はあのやさしい羊の年ですから羊に就て面白い西洋のお話を致しませう。

西洋ではおとなしいことをよく『羊のやうだ』といひますが、その起りに就て南米のブラジルにこんな話があります。

昔一匹の小羊がうれしくてうれしくてならないと見えて、野原で飛んだり跳ねたりしてゐました。それは、たつた今喰べたばかりの御馳走が非常においしかつたからですつかりよい氣持になつて。

『俺ほど世の中にえらいものはない』

と思つてゐました。

すぐ側でこの有樣を見てゐたのは一匹の大きなひきがへるでした

『おい、小羊公。ばかに景氣がいゝぢやないか一體どうしたんだ』

と訊ねました。

得意になつてゐる小羊は、

『どうもこうもない。兎に角俺は嬉しくてたまらないんだ』

といひ乍ら相變らず躍り跳ねてゐます。

いまいましくなつたひきがへるは、一つおどかしてやらうと思つて、

『嬉さうにいつたつてお前を海へ引ばり込む位は譯はないんだぜ。恐くないんなら此の綱の端を持つて御覽』

といひました。

小羊はひきがへるなんかに負けないよといはんばかりにその綱の端を掴つて相變らず嬉しさうに跳ねてゐました。

そこでひきがへるは綱の一方の端を持つてぴよんぴよん跳ねたがら海岸へ行き、そこにゐた鯨に綱を結びつけました。

『鯨さん。御願ひだから沖の方へ泳いで行つて下さい』

とひきがへるがいふと小羊が綱の一方の端を持つてゐるとは知らない鯨は、一目散に沖の方へ泳いで出ました。小羊は一生懸命頑張つて見ましたが、とうてい鯨には叶ひません。見る見る內に波打際にひきずりよせられてしまいました。もう海の中へ入るといふ所で小羊はあはてゝ綱をはなして

『あゝ、參つた。參つた』

と大聲を揚げて降參しました。

その明くる日ひきがへるが小羊の所へやつて來ました。そして何くはぬ顏で、

『昨日は失敬した。所で一つ相談があるのだが聞いてくれないか。實はわしは王樣のお姫樣に、お前の背中にのつて、お前の口から手綱を取つた、わたしの姿をお目にかけませうと約束したのだが、聞いてくるだらうね』

といかにも親しさうな口調でいひました。

これを聞いた小羊はぐつと癪にさわつて、

『君は昨日僕をだまして海に引きずりこまうとしたではないか。君の馬なんかになるのはご免だよ』

ときつぱり斷りました。

それから二、三日立つて小羊は遊び相手がないので、ひきがへるの所に出かけて行きました。見るとひきがへるは丸くうづくまつてうんうん唸つて居ます。

『ひきがへるさん、どうしたんだい。病氣か。それはかはいさうだ何かほしいものはないかね』

と小羊は親切さうにいひました。ひきがへるは苦しさうに顏を持上げて、

『いや有難う。實は今日はお姫樣のお城に招かれて行かねばならないのだが、このからだでは行けさうもないよ。誰か運んで行つてくれる人があるといゝんだが』

と泣き出しさうな聲でいひました

小羊はすつかり氣の毒になつて、

『おや僕が連れて行つてあげやう。すぐそこだからわけはない』

といひました。

ひきがへるは急に元氣づいて、小羊の背中にぴよんと飛び乘り、ベロリと舌を出しましたお姫樣のお城をさして正直に步いて行きました。しばらく行くと、背中のひきがへるが

『あゝ、とても苦しい。何かゝらだを支へるものがあればいゝのだが』『おい君。一寸草を取つて口にくはへてくれないか。僕がその兩端をもつて叩たら、非常に樂だから』

とあはれた聲を出していひました。

小羊はいはれるまゝに道ばたの草を取つて、くはへ、その兩端をひきがへるに持たせました。お城の下まで來るとひきがへるは急に元氣づいて大きな聲で、

『お姫樣。お約束通り小羊の背に乘つて來ました』

と叫びました。

お姫樣がお城の窓から顏を出されると同時に四方の民家の窓からもたくさんの人が顏を出して

『おやまあ、あの小羊はどうしたんだらう。可哀さうにひきがへるに手綱をとられて乘馬になつてゐる。あゝおかしい。ハハハハ。ホホホホ』

と皆お腹をかゝへて笑ひました。

小羊はまだだまされたといふことを初めて知りましたが、それでも何もいはないでおとなしく家へ歸つてゆきました。

このことがあつてから人々はおとなしいことを『羊のやうだ』といふやうになりました。

◇

今一つ、これはヨーロッパにあつたセルヴィアといふ國のお話。

昔ある獵師が山に狩りに行つてみると、金色の毛をした羊にばつたり出會しました。驚いた獵師はあはてゝ鐵砲を取り上げて、これを撃たうとしましたが、時すでにおそく、猛烈な勢ひで躍ひかゝつた羊のために、からだを八ツ裂きにされて、その場に死んでしまひました。

後に殘つた伜はその鐵砲を何よりの記念として壁にかけておきましたが、それから十數年たつてその子供も立派な男になりました。

或る日この息子が父の記念の鐵砲を持つて狩りに行きたいといふと母親は、

『この鐵砲はお父さんの命を奪ふことの出來なかつた不吉な鐵砲です。萬一のことがあつたらどうします』

といつてなかなか貸してくれません。

けれどもその息子は狩に行きたくてたまらず或日こつそり鐵砲を擔ぎ出して、大喜びで山の中へ入りました。

忽ち眼前に現はれたのは父親を殺した金色の羊です。驚いて飛びのいた時羊は頭の上から躍ひかゝり、まさにやられたと思つた瞬間知らぬ間に引金に手がふれてズドンと一發、見るとそこにはあの恐ろしい羊が見事に胸を打拔かれて死んで居ます。

夢かとばかりに喜んだ若者は急いでその皮を剝ぎ、村に持つて歸りましたが噂は忽ち四方に擴がつて王樣の耳に入りました。慾深い王樣はその皮が欲しくてたまらず若者を呼んで、

『その皮の代りに何でも欲しいものをやる』

といはれましたが、然し折角討つた親の仇を手離すことはどうしても出來ないので若者は、

『この皮ばかりは差上げることは出來ません』

ときつぱり斷りました。

欲しくてたまらない王樣は一つの難題を持ちかけて皮を取上げてやらうと思ひ

『これ若者、葡萄園を作つて一週間以內に新しい葡萄酒を作つてくれ、そうしたらその皮はお前のものにしてやる』

と仰られました。

若者は何とかして王樣の命令通りにして皮を差上げなくてもよいやうにしたいものだと思ひましたが一週間ではどうすることも出來ず、一人で泣きながらとぼとぼと家路につきました。

『あなた、どうしてそんなに泣いて居るんですか』

やさしい女の聲にびつくりした若者が顏を上げて見るとそこには美しい乙女がニツコリ笑つて立つて居ました。

若者が王樣から難題を持ちかけられたことを話すと乙女は

『では私が葡萄の作り方を敎へて上げませう。王樣からどこに作つていゝのかを聞いてそこに印をつけておいて下さい。そしてあなたはそこに一週間寢るのです。七日たつたら立派な葡萄がなつてゐます』

と親切に敎へて呉れました。

若者は雀躍りして喜び早速王樣の所に行つてどこに植てよいかを聞きそこに寢ました。

明くる日になつて見ると葡萄の木がちやんと植つけられ、二日目には美しい葉がしげり……七日目には熟し切つた葡萄が枝も折れんばかりにたれ下りました。夢かとばかりに喜んだ若者はこれですぐ葡萄酒を作つて王樣のところへ飛んで行きました。

王樣はとても出來ないと思つた葡萄酒を約束通り一週間で作つて來ましたので仕方なく若者の望み通り羊の皮を若者のものとすることを許されました。

福壽草　河井虹外畫伯筆

試筆　中村歌右衛門

新年文藝

俳句（完）

題『新年雜詠』　臼田亞浪先生選

初凪の港に巨船かかりをり　鎭南浦　安本柳雅朗
有明や拍手ひびく杜の霜　京城・花坂　茅村
門松に雪のかゝりて旦かな　江景　國田つとむ
元旦や砲音の空どよもして　步の七八　中村一貫
陸道に出て拜みたる初日哉　馬山　賀藤　星河
電線に凍て着く雪や初日の出　延安　鈴木　白亭
雪やみぬ門松の街々明けて　京城　今野千代丸
初日の出松の幹々立ち並び　康津　木谷　晉明
山近く雲一ひらや初御空　大邱　大浦　文彦
初夢も見ぬ淋しさや子の病みて　龍山　今福多佳男
溫突に蠅とわれとの年の春　京城　立岩三四子
土堤の紙鳶すぐにあがりて朗かや　金川　田邉風信子
年玉二つならべて置きぬ枕元　仁川　中島　辰次
外れ羽子の折れ離されて落ちに鳧　京城　松尾志津人
雪國や門松だけの青さにて　中江鎭　井口　呑湖
暮れはやきお元日なり街燈り　京城　妹尾　潤月
此の國や溫突のよき睡正月　咸昌　山田きよし
元日や旗風爽き大通り　新幕　金丸　季園
明けゆく月の氷や齒のいたみ　龍岩浦　すずき秋果
ひた降りの雪となりたる出初哉　金堤　國宗　淺女
屠蘇の醉目づと出でし小唄かも　金堤　國宗　鳴芳
のびやかな日かたラヂオの初謠　平山　三根　櫻人
羽子拾ひくれたる人の笑みかけし　新幕　金丸　花水
かざり映ゆる大前の雪や初詣　大阪市　山澤　蕉衣
ひと所淋しき枝や團子花　鎭南浦　菊川　敏代
那の逝過ぎにけり羽子の音　京城　道　雪峰
初手水雪光る庭に棄てにけり　春川　桂木　白虹
日もすがら雪を步きぬお元日　咸北　菅原　利川
落葉焚いて何やら樂し山始　京城　泊　青蘇
門松の淡き日影や風の中　東京市　雨　亜石
童や軒のつまより凧あげて　安東縣　岩上　松
汽車の旅驛の初鷄聞きにけり　京城　關部　山猿
初詣で秘めしみ錢を踏みもして　新幕　篠原　汀村
藁塚のかげのうらゝに初日かな　咸州　長谷川芝川
灯明りに讀みもあかざり年賀狀　晉州　坂本あらた
絶間なく初荷通りて賑郁か　仁川　明崎とらじ
父に代りて汲む若水の息あげて　定州　楢原　雨村
忘れ居りし人の賀狀をなつかしみ　平壤　和田　白川
禰宜どのの雪踏みおはす初日哉　京城　有賀　流東
初荷馬ひしめき合へる道となり　仁川　河內　太堂
屠蘇の醉門出て雪によろめきぬ　昌城　星野　越洲
初凪や藁根の家の水明り　仁川　工藤　想仙
松の內暖爐焚き焚き暮れにけり　仁川　工藤和風子
元朝の道の閑さを行きにけり　楊平　三浦　詩波
盛り場のお降に映る火影かな　福岡市　遠上　映二
年越の掴かけ井戸やお元日　金川　畑井　孝夫
春着見返し笑む子に寒だかり鳧　洪城　尾崎　帆歩
雪深き門田のほとり左義長たく　寧越　金子　筑城
松の內屏風のかげに病みにけり　釜山　井本　良夜
初東風や輕く浮き出し旋網　淸州　海多　哲竹
ここに泊つて砂丹飾る年の朝　福岡市　田中みさを
今年もこのゆがんだ門に松飾り　福岡市　谷　榮吉
歐留多取る聲すさまじき夜の隣　黃登　木田　茂夫
帆あげては出てゆくなり初荷船　京城　長瀨　飛佇
既にして紙鳶のうなりや御元日　金郊　田邊佐衞太
御飾のくづれ今年となりぬ　定州　川西　笠人
初風呂の湯氣に匂へる灯かげ哉　元山　甲斐　蘇後
沖荒のかゞやきそめぬ羽子をつく　羅州　長田　白馬
雪に埋れて山家はぬくき屠蘇の醉　兼二浦　橫山　時風
水波に出でて初祭仰ぎけり　麗水　松山　靈峰
元朝や澄みわたりたる大き家　京城　中村　一枝
小さき凧抱へて若子も交りけり　金泉　井上　彌生
門松のうす雪つみて明けにけり　楊平　照崎　桃村
元朝の雪ふるしづかなる松に　釜山　荒木田津夫
旅に寢てかるたの聲を聽く夜かな　浦項　松木　吉郎
山の夜の月にかるたを重ねけり　京城　宮村　笑波
暫くは初荷の馬よ山の里　京城　鹿野　狄人
地は凍て霰の如し松を取る　兼二浦　上田　乾雨
次々に來て焚き添へぬどんどの火　鎭海　橋爪　紫藍
元日はや西日の腰障子　福岡市　砥上榮誌樓
二三本枯木透しに初日かな　浦項　月讀　枯村
溫突の溫さに寢ほけ松の內　京城　寺田みつ春
嚴寒の葉の日にひらひらと厨口　春川　小塚千代女
山の初日社頭の雪にさし來り　岐陽　樋口　梧樓
翳かざす宮居の松の初明り　延安　太田　研雨
牧場の初日に群れて牛や鷄や　沙里院　大沼　一朗
初日さす溫突障子あかあかと　平壤　諸岡　飽友
初詣で社頭靜かに雪の降る　定州　天野　紫一
ぬかるみに落ちたる羽子を拾ひけり　井邑　關谷　晴川
御降りや去年のまゝなる御佛　宜寧　高橋鏡羽子
寒鍋の溫もりにゐる蠅一つ　石川縣　齋原　大池
初東風や山響くこと雲走る　同　下田　六英
初明りさす聖徒の濡れ光り　同　天野　學兒
若菜摘む磯邊の石の雲たゞみ　同　小林・秀丸
橋下の舟より昇る雜煮の香　同　小笠原浦京
初詣で沖より雲のとんでくる　龍岩浦　安部ひさし
初日出て島の上の雲燃ゆるさま　利里　獸庭　笑葉
元朝の雨はたれゆく松青き　京城　松澤　京二
出初式雪ちらちらとかゝりけり　京城　赤松　鳴湖
梢より初日さし來て雲の上　大連　坂本　謙龍
羽子の影背戸に翻へりつつ　元山　伊藤　紫羊
明けにけり靜かさ飾る松の內　京城　的野　弘子
初日うらうら紫煙とさせる凸內や　京城　佐々木醉仙

選後に

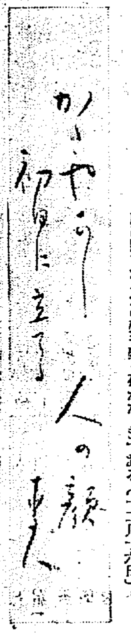
臼田亞浪

制作上さまざまの困難を伴ふ新年雜詠として、佳作級の作品の比較的多かつたことをよろこびたい。いはゆる等外の作品中にありても『伏戀の靑み若水汲みこ守す』攝水、『たかだかに雪深けれど初詣』京子、『雪虫にふやけし月や松の內』ひさし、『初鷄に明けゆく波の音きゝぬ』京二、『初凪ぐ木の葉木の葉に雪ありぬ』松女　これ等の句々は、みなそれぞれに佳いところを持つてゐる。殊に『伏せ戀』や『初凪』やは、おろそかならぬ現實性にひきつけられる。

三等は特に一句加へて置いたが來宮君の『めうと雀』は年頭の感情が鮮かに盛られてゐる上に、表現が素直でもあり、巧でもある。同じく白龍君の『湖畔』も表現が巧なばかりでなく、風ふゝむといふ言葉のうちに極めてデリケートな和やかな感情を潛めてゐる。

二等の丞鳳君の『霜の光り』は年頭における和やかさのうちに持つ嚴肅さが、あるがまゝの自然のすがたを藉つて遺憾なく象徴されてゐる。多難の現代社會に處する作者の生活相ともいはう。

一等の冨子君の『初荷』は、このむづかしい命題のもとに、よくもその純粹經驗を生かし得たものではある。たゞこれだけの事柄のやうに思ひなす者もあるであらうが、靜かに心をひそめて、この一句に盛るゝ幽遠の生命感を味讀すべきである（十二月十六日）



かゞやかし初日に立てる人の顏　星野麥人

賀正

森本敬一

大田　折箱製造本舖　古田商店　古田乙吉

大田榮町　有田ドラッグ特約賣藥所　末吉孫一　電話三五五番

大田榮町　大田皮革株式會社　電話百三十四

大田　禰屋謹一

大田榮町一丁目　十川齒科醫院　電話三三番

大田　三島竹男

大田本町　表具　松華堂　若山新助

大田驛前　御餅商　菊水　新井利邦

大田　本町商友會

大田本町　蠶糸蠶種　農具肥料　山林苗　弘蠶社　木上恒藏　電話二七八番

全州專賣支局　大田出張所

大田　末吉組

大田　大田旅館組合

大田　今井辰次郎

大田　松浦兄弟牧場

大田春日町　小暮洋服店

大田　活田太一

大田　畑米吉

大田驛前　中村果實店　電話四七一番

大田　岡本魚店　電話一二三番

大田　魚業市場

大田　島田呉服店

大田　瀧川自轉車大田支店　電話二一〇番

大田　風月堂

大田　金東洙

大田　河古屋樂器店　電話四〇一番

大田　曾田染物工場　電話三六四番

大田　齋藤恒太郎

大田　鈴木喜一

大田本町　高谷食料品店　高谷登吉

大田春日町　新莨商　岡商店　岡金太郎　電話二〇一番

大田春日町　西原自轉車店　西原鐵一　電話二五四番

大田　土井金物店

大田本町二丁目　芦田朝鮮支店　吉見次作　電話二六九番

大田本町二丁目　三協商會支店　電話三七八番

大田春日町　鹿野號　田中喜三郎

大田本町　穀物肥料商　生野商會　電話一九番

大田本町一丁目　タツミ藥局　電話四二六番

大田　沼田虎次郎　電話二九番

大田　畑孝三郎

大田本町二丁目　鶴川伊兵衛

忠淸北道立淸州醫院　職員一同

大田郵便局　局員一同

大田郡廳　大田郡農會　高橋正　今村義生　桐山要一　木村安

儒城溫泉　鳳鳴館

大田敎員會

大田醫師會

全義驛長　山口卯吉

小井里驛長　清水義人

四街里驛長　本田貞五郎

新興里驛長　池田不二彦

林谷驛長　松本榮太郎

古莎院驛長　成田清臣

成歡驛長　柘植唯一

大田本町二丁目　百萬商會　電話一〇一番

大田本町二丁目　中尾酒造場　電話九四番

大田本町二丁目　大田ゴム商會　兒玉長之助

大田春日町　御壽司　やつこ　電話三六五番

大田　伊藤健藏

大田本町二丁目　南部京平商店　電話四五〇番

大田　岡本魚店　電話一二三番

大田驛　階上食堂　福田廣吉

大田春日町　おち履物店　電話二四六番

大田　小橋治平

大田本町一　肥料穀物商　蓑浦廉次郎商店　電話五二番

大田本町一　紙文具商　本司商店　本司義足

大田本町　食料雜貨　市原商店　市原忠三郎　電話三〇六番

大田本町　石炭　滿洲粟　各種肥料　ゴムベルト　中村捨三商店

大田　大田座　小松興業部

大田驛前　中村果物店　電話七一番

國際通運株式會社大田代理店　大田トラック組合

忠淸南道立大田醫院　職員一同

大田木材商組合　吉原材木店　電話一四九番　富士材木店　電話二七六番　明田材木店　電話二〇三五〇七番

大田鐵道水曜會

大田郡新灘津普通學校長　奥園卯作　同　新灘津小學校長　竹野義龍　同　儒城小學校長　有光鹿造　同　鎭岑普通學校長　藤井穰

清州稻荷町　御料理　北一樓　電話三五番

清州　忠北土木建築組合

忠北　永同官民有志

清州驛前　朝鮮陸運株式會社　專務取締役　市川幸右衛門

忠淸南道無盡會

大田土曜會
東洋拓殖株式會社大田支店
朝鮮殖產銀行大田支店
郡是製絲會社大田工場
大田電氣株式會社
洪城銀行大田支店
朝鮮興業會社大田管理所
朝鮮煙草株式會社大田支店
日海興業株式會社大田支店
忠南無盡株式會社
大田金融組合
懷德金融組合
大田產業組合

華やかな颱風【86】

福田正夫作　野崎貞雄畫

散り行く花（十）

英子と康雄を乗せた自動車は、東京驛へ向つて走つて居た。見かけには、これから新婚旅行に出やうとするいかにも幸福さうな新婚の夫婦に見えたが、然し英子の胸は言ひ知れぬ憂愁に塗りつぶされて居た。式の間は他人の身體のやうな氣がして居たので大して苦しかつた感情も起つては來なかつたが、かうして二人きりになつて自動車に乗つてみると、諦め切つては居たもの丶流石に英子は今更ながら何故この結婚を承諾してしまつたかそして、出來ることならこのま丶自動車から飛び下りて何處かへ逃げて行つてしまひたいとさへ思つた。

然し、帝國ホテルから東京驛までは直ぐだつた。そして英子の乗つた自動車は間もなく東京驛の乗車口へ着いた。そして、英子は避けながら康雄の後について降りなければならなかつた。

もう發車の時刻は迫つて來た。そして切符はすでに先に人を遣して買つてあつたので、それを受け取ると康雄は慌て丶改札口を通つた。英子も同じやうに急ぎ足で康雄の後へ隨いたが、然し彼女は康雄に引きずられるやうにして追いて行く自分が何となく自分で腹立たしかつた。

彼等が乗り込むと間もなく汽車は動き出した。英子は思はず胸の迫つて來るのを感じた。そして、窓の外を過ぎ行く東京の灯を、も早見ることの出來ない灯であるかのやうになつかしさうに見送つた。

汽車は新橋、品川ととまつたが彼等の乗つてゐる一等車には誰も乗り込んでは來なかつた。そして二人は互に向ひ合つた席に腰掛けながら、はなれ／＼の心持で英子は窓の外を、そして康雄は夕刊を見てゐた。

汽車は品川を發車すると次第にスピードを増して行つた。それに從つて窓の外に見ゆる灯の數が段々減つて行つた。然し、英子はいつまでも／＼窓から顔をはなさうとはしなかつた。一時的にこれが見納めの東京でもないのだが、彼女として見る最後の東京だと思ふと、流石に胸いつぱいになつて來る感情を抑へることが出來なかつた。そして、眼には薄く涙さへにじみ出て居た。

康雄はいつまでも新聞をバサバサ云はせながら隅から隅まで讀みつて居たが、やがて讀むところもなくなるとそれを投り出して煙草に火をつけた。そして、深く吸ひ込んだ煙を強く吹き出しながら英子の方へ向つて

『こつちへ來ない？』

と、聲をかけた。

然し、英子は

『は丶』

答へたきり、再び窓の外へ眼を移して立ち上る氣色も見せなかつた。

康雄は暫く英子の横顔をじつと見まもつて居た。その顔には獲物を見まもる勝利者のやうな滿足さうな、また安心しきつた微笑をさへ浮かべたから……。然し、やがてゆつくり身を起すと、靜かに立ち上つて英子のすぐ鼻の先へ來て腰を下ろした。そして、わざと英子と同じやうに暗い窓の外へ眼を向けたが、その瞬間に彼は窓硝子に當つてゐる細い雨足を認めて言つた。

『おや、雨が降つて居るね』

『た丶』

英子は相變らず無愛想な聲で答へた。そして、それをいゝしほにして顔をしかめんばかりの氣持でくるりと身體の向きを變へると傍へ喰付に來た康雄から身體をはなしてしまつた。

然し、それでも康雄は別に顔色一つ動かさなかつた。反つて、安心しきつた滿足さうな微笑をも一度瞼のあたりに浮かべながら、靜かに言葉を續けた。

『相變らず、今晩も御機嫌が悪いやうだね』

然し、英子はそれに對して何とも答へなかつた。そして、彼女は何故からもこの人と自分とはこんなに反撥し合はなければならない性格に出來上つて居るのだらうと思つた。自分にはこの人の言ふ一言々々が氣にさはる……。それは彼女にも不思議に思はれる位だつた。そして、いくら目をつぶつてと思つても、この人とは性格的に一致しないところがあるのだからと、この際に立到りながらも絶望的に考へずにはをられなかつた。が彼女の頭にはそんな考へが浮んで來て居る折、康雄は英子の感情をその奥底から搖るやうに續けて言つた。

『だが、今夜はいくら御機嫌を損じたつて平氣さ。もう君は完全に僕のものなんだから……』と。

新年文藝

短歌（三）　題『新年』　尾上柴舟先生選

佳作

江景　久光茂
初春の雪降りしきるうぶすなに拍手音の新らたひゞくも

京城　松尾衣子
かるた會果てたる後のひそやかさ人の匂ひのたゞよへり

京城　妹尾潤月
新玉の年のはじめに子等よせてむべき道のまこと敎へつ

馬山　宮嵜寒朗
羽子ついて舞妓等遊ぶ街上を朗かに笑みて配達夫ゆく

京城　今野千代丸
夕まけて吹雪すらしも元日の軒べに國旗はたゞ／＼となる

島致院　米良ちかよし
軒ならみ旗ひるがへる明倉町まちの人のけふは行き交ふ

京城　葉山道夫
新年はこゝろ住からとなるものかつぎつぎに飲み辭ひてためしも

大邱　大浦文彦
荒波の上を渡りて初日今陸上の雪に及び初めけり

原州　錦宮寄代子
留守居して初湯に浸たり借りの無き吾なりはひの氣安さ思ふ

京城　松尾志津人
幼子に羽根突かすれば幾たびか拾はせられてむしろ樂しも

金泉　小方卿居
踏み出づる足どり輕し太陽は年立つ街の雪に輝く

新義　金丸湖子
白砂に雪降り積る御社の鳥居にも立つ日の御旗かな

龍岩浦　すゝき萩果
初凪の海のおもての大き船帆柱のかげの波のこまやか

京城　紅梧
今年こそと深く心にちかひたり昇る初日をおろがみながら

新義　金丸季園
すが／＼と晴れたる空に太々と煙り立ち立つ初春の里

大邱　山澤栗衣
復興の力みなぎるわが里は松の内よりかけやの音す

龍山　中村正雄
置きかへし砂白々と園藝店の小鉢に春のやゝ動き見ゆ

京城　横山玄風
故郷における妻子を思ふ身も儀式の御酒は醉ひやすきかな

東京　久保三馬
おにもりと雪をかむりし門松に今年の朝日さし來りけり

京城　横山澄子
指折りて歳を數ふる元日の吾子の笑顔にきざす春かな

金三浦　若泉廣子
朝なあさな米とぐ水の身に泌みて新らしき年の日々に近づく

咸興　四ッ谷廚
新しき年立つ今朝を白息吹見せてほぎごと言ひ交はし居り

京城　岸咏都賢
晴れやかに袖ひろがへしカルタとる少女の顔の夜のかゞやき

黄海道　勝岡清一
あら玉の年立つ今朝は父母のいませる國の空まづ拜む

大田　河越すみ江
初便りそれ／＼の名に區別するわが指先はおどりて見にぬ

京城　木戸冲つ濤
やう／＼に店仕舞終へて風呂に行けば湯氣にこもれる正月の色

同　同人
忙しき商ひ人といふことをしばし忘れて居睡いはひてむ

大田　河越朝彌
我が妹よ負けずつゞけよ羽子板は物指眼の鋭月ゆゑに

岡山　濱田英爾
世のすがた嶮しさ忘れ元日の日向ぼこすもうからやすらに

平壤　兒玉芳明
溫突のぬくみも嬉し屠蘇了へて繙き[illegible]この元朝は

京城　長瀬飛杵
庭火たきしあとのみ黑しふりつめる雪の光のまばゆき社

福岡　田中みさを
受附に投り込まれし郵便の數多きかな今日は元旦

福岡　櫻睡素郞
元旦の朝日おろがむ老らくの父の背は前屈みたる

福岡　谷榮吉
新年の仕事始を今日終へて心安けく寢居るなり

京城　田澤芳水
あら玉の年を迎ふる明るさにおのづからなる望み湧きくも

金川　皿井雨
門松の根にもる砂を佐まし探しもとめて川ゆかへりぬ

福岡　遠上映二
おのづから幼心に歸るなり門松に雪ふりかゝる見れば

東亞倶樂部（東亞商會）
三日封切三日間上映　新春第一回超特別興行
喜劇傑作戀を知らずの當り……
御入場料　階上席大人四十錢　小人學生二十錢　階下席大人三十錢　小人學生二十錢

東亞キネマ超々特作　嵐寛壽郎映畫の最高特作
原作 並木五瓶　脚色 社[illegible]久江
主演 嵐寛壽郎　原駒子
薩摩歌
助演 東正次郎　頭山桂之助　久世小夜子　今成平九郎
美男であるが異性を知らなかつた源五兵衛（嵐寛壽郎）はフトした事より薩摩小萬（原駒子）の愛を得たが小萬の深き情は知るに由なく一夜鬼の力を揮るつて彼女の家族を斬るに至つた

メトロゴールドウイン特作
原作 ワイラード マツク氏　監督 エドワード クライン氏　主演 ヂヤツキー クーガン君
少年ロビンソン
助演 ウイル ウオーリング氏　トム サンチ氏　グロリア グレイ嬢　トートダリロウ氏
汽船が難破して九死に一生を得た少年が流れついた島こそ恐ろしい食人島……群がり集ふ此の世ながらなる鬼の一隊……

東亞キネマ超特作現代劇
原作 大行アサノ　脚色 山本三八　監督 井手錦之助　主演 岡田靜江　杉山昌三九　助演 勝島和子　月形正美　土肥了治
憧れの人々
地位、名譽、そして戀、それは男の憧れのであつたが、彼の母や姉は何を求め何に憧れていたのであらうか？

京龍館（東亞キネマ　龍山錦町）
卅一日より三日間上映　正月特別興行
東亞キネマ超特作　原駒子　光岡龍三郎　主演
時代劇 **武俠闘東嵐**
女俠駒形お仙を中心に起る旋風俄然として赤物使ひ尖刃のきらめき
ダルマッチプロダクション特作　冒險活劇 無恐若茶森の冒險　リチヤードダルマッチ猛演
東亞特作現代劇 **スポーツ女房**　上村節子　日向鋼之助　不破[illegible]共演

朝日座（本町五丁目　電本三二六八番）
一月元日より　當る　晝一回 夜二回　晝十二時半より　夜六時より
新春特別大興行　**時田一瓢** 外四十五名
[illegible]
特等 一圓　一等 八十錢　二等 五十錢　三等 三十錢　小人學生各等半額

涙花館
昭和六年元旦より
[illegible]新派　**藤間靜子**一行
[illegible]

中央館（マキノ帝キネ）
四日より超特別大興行
スピードウエイ 全十巻
メトロゴールドウイン超特作品
[illegible]

十四郎御用篇 全十巻
[illegible]

嵐山小唄 全六巻
[illegible]

喜樂館（日活）
卅一日封切　賀正新春超特別大興行
戀模樣 全八巻
[illegible]

大正館
三十一日封切新春特別大興行
松竹キネマ特作ユウモア映畫
[illegible]
海の王者（ハリケーン）
[illegible]
清水の小政
[illegible]

賀正

春川郵便局　山中德四郎

春川營林署　東阪市太

春川　西大門刑務所春川支所

春川本町　大和屋吳服店

春川邑 江原道種苗場　職員一同

橫城警察署　署長 蛯谷八十松　外職員一同

原州郡廳

春川郡廳

春川邑司倉里　江原道土木組合

春川邑前坪里　春川電氣株式會社

春川邑　内鮮自動車株式會社　春川營業所

原州警察署長　吉田祐四郎

春川郡新北面　春川牛頭水利組合

春川邑　春川實業組合

春川邑　久武常次

土木建築請負　崎山長貞　謹寧

京城日報海州支局長　上村篤實　電話一四七番

土木建築業　森岡駒太郎　延安

土木建築請負　松田寛

安岳郡廳

海州道立醫院　職員一同

黄海道友會

在海各學校　職員一同

道農會　畜産聯合會　黄海道蠶種業組合

黄海道金融組合聯合會　黄海道金融組合理事一同

黄海道土木協會

黄海道廳　食堂員一同

ライオン歯磨

賀正

乾坤一轉、眞に靜謐なる新年を迎へて、心頭眼景おのづからなる嚴粛感を禁じ能はず候。殊に念ずらく、大方の清福と貴家の慶恩裕ならむことを。

茲に謹んで賀詞を呈し候。

稽首再拜

昭和六年元旦

ライオン歯磨本舗
株式會社 小林商店
東京・大阪・名古屋

御愛用各位
御來の御信頼こ
御販賣店各位
の相變らざる
御後援に對
して厚く御禮
申上候。